



EF EPI

EF英語能力指数

116カ国・地域の英語力ランキング

www.ef.com/epi

EF SET

EF標準英語テスト

無料のEF SETの受験はこちら:

www.efset.org/ja

2024

目次

- 04 エグゼクティブ・サマリー
- 06 EF EPI 2024 国/地域別ランキング
- 08 EF EPI 2024 首都 スコア
- 10 EF EPI 2024 詳細データ
- 12 英語と経済
- 13 英語とイノベーション
- 14 職場における英語
- 16 英語と社会
- 17 英語と未来
- 18 ヨーロッパ
- 20 アジア
- 22 中南米
- 24 アフリカ
- 26 中東
- 28 英語能力レベルの詳細
- 42 結論
- 44 提言
- 46 付録A:この指数について
- 48 付録B:EF EPI 能力レベル
- 49 付録C:CEFR レベルとCan-Do自己評価
- 50 付録D:EF EPI 各国・地域スコア

エグゼクティブ・サマリー

英語は、他の言語を共有しない人々の間の事実上のコミュニケーション言語として定着していますが、だからといって英語力が世界中で上昇しているわけではないようです。実際、私たちの調査データはその逆を示しています。言語習得には時間がかかるため、他の課題が生じれば、簡単に挫折してしまうことがあります。

今日、世界中では30年前よりもずっと多くの人々が英語を理解しています。しかし、その多くは母国語と同じ効率で仕事や勉強ができるほど英語が達者とは言えません。それでも、多くの人々が教育や職業の場面で英語を使用し、機会損失やミスコミュニケーション、無駄な時間にかかるコストは計り知れないものです。

本レポートでは、世界各地で英語力がどのように向上しているかを調査しています。EF英語能力指数の2024年版を作成するため、2023年にEF SET英語テストを受験した210万人の成人の結果を分析しました。

世界的な英語力の低下

世界各国の英語力は4年連続で低下しており、今年は60%の国が昨年より低いスコアとなりました。ほぼすべての国のスコアの変動は小さいものの、この減少傾向は、世界の多くの地域で英語力を現在のレベル以上に伸ばすことへの関心が緩んでいることを示しているようです。すべての超国家的スコアは、各国のスコアを人口で加重平均して算出されるため、例えばインドの若年成人の習熟度の変化は、スリランカと同じ習熟度の変化よりも、アジアの若年成人の英語レベルの報告にはるかに大きな比重を占めることになります。

根強い男女格差

昨年と比較すると、女性の英語力は横ばいである一方で、男性の英語力は低下しており、男女間の格差は縮小しています。例年通り、男女差は若い世代で最も大きく(14ポイント)、年齢が上がるにつれて徐々に縮まり、40歳以上ではわずか3ポイントになりました。

アジアの英語力低下

アジアの英語力は昨年と比べて、世界のどの地域よりも低下しました。減少のスピードは主にインドが牽引しており、中国もそれほどではありませんが影響を与えています。その一方で、アジアで昨年英語力が向上した国はほとんどありませんでした。キルギス、スリランカ、アフガニスタンは、世界で最も男性との習熟度格差が大きい国の一つです。

ラテンアメリカの停滞

ブラジル、エルサルバドル、キューバは10ポイント以上低下しましたが、メキシコは数年来の低下からわずかに回復し、ウルグアイとコロンビアは着実な改善が続いています。同地域の男女格差は依然として世界で最も大きく、ほぼすべての国で男性が女性を10ポイント以上上回っています。

中東における着実な成長

中東の英語力は過去10年間、ゆっくりと向上してきましたが、小さな進歩も着実に積み重ねれば、大きな差となります。昨年、中東地域の平均英語力は最下位から脱却し、今年はサウジアラビアがその地位を固めました。18~25歳の成人の伸びが最も大きく、この若々しい地域では心強い兆候となりました。

向上し続けるアフリカの女性たち

アフリカは今年の調査で、地域としての英語力を向上させた一方で、ポイントを上げた国よりも数ポイント下げた国の方が数多くありました。中でもアフリカは女性の英語能力が最も向上し、アフリカ大陸で唯一、女性の英語能力が一貫して男性より高くなりました。女性に有利な男女差が大きい8カ国はすべてアフリカにあり、その中には世界で最も男女差が大きいエチオピアも含まれています(+58ポイント)。

欧州における熟練度の軟化

欧州の英語能力レベルは若干低下を見せています。過去4年間の低下幅はEU域内の方が域外よりも大きい(欧州地理的地域の-2に対し、EUは-13ポイント)ことが分かりました。世界で最も英語力が高い国の多くが今年、わずかながら低下し、欧州で10ポイント以上向上した国はありませんでした。また、スカンジナビア、チェコ、ブルガリアでは、依然として男性に有利な男女格差が際立っています。

もはや減少していない新卒者

18~20歳の範囲における長期的な習熟度の下降傾向は今年になって止まったものの、反動があまりにもわずかで、今後回復が続くかどうかは明確ではありません。世界的には、他の年齢層は安定していますが、各国の傾向はより変動が激しく、半数以上の国が少なくとも1つの年齢層で大幅な変化(20ポイント以上)であるとの報告が上がっています。

英語力は経済的・人間開発の他の指標と相関する

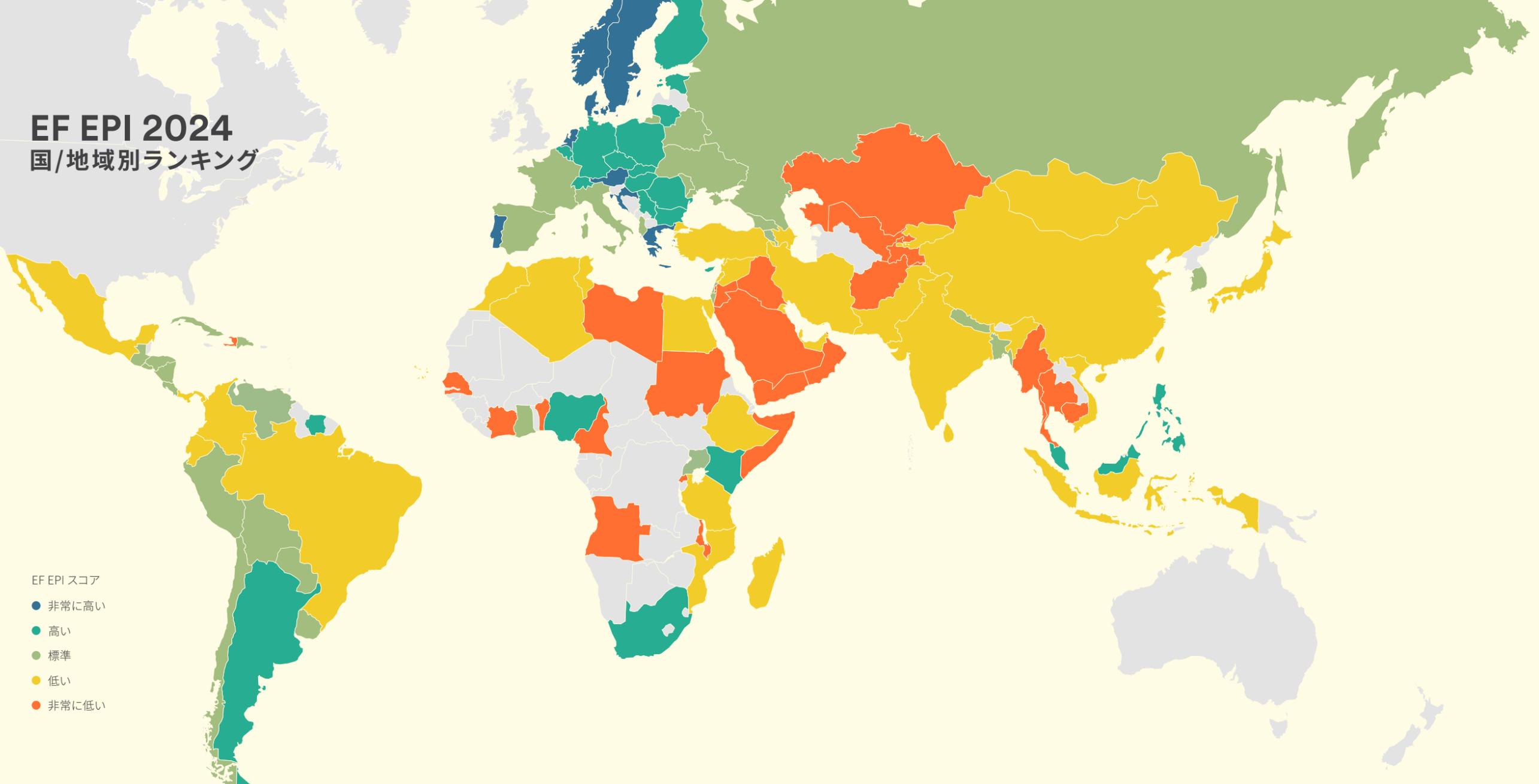
国レベルで測定された英語力は、所得、教育、技術革新、福祉、競争力、より広い世界との関わりなど、さまざまな指標と相関しています。これらの相関の強さは年によって異なりますが、GDPや平均教育年数のような単一の指標との相関が弱まる一方で、計算された指標との相関が強まるなど、長期にわたってその関連性を保っています。

公的機関労働者、民間に遠く及ばず

公的機関における英語力は、労働者全体と比べるとかなり低い。この原因の一つは、民間企業の求人情報の多くに英語が必須条件として記載されているという採用慣行の違いにあると考えられます。その一方で、職場環境そのものも影響を与えているとの見解もあります。なぜなら、多くの国で、成人は正式な教育を受けた後も職場で英語に触れることで英語力を伸ばし続けていることが、様々な証拠によって示されているためです。公的機関の仕事は、その性質上、通常、国や地域に限定されるため、英語を話す練習をする機会が少ないとされています。

EF EPI 2024 国/地域別ランキング

- EF EPI スコア
- 非常に高い
 - 高い
 - 標準
 - 低い
 - 非常に低い



非常に高い英語能力

01	オランダ	636
02	ノルウェー	610
03	シンガポール	609
04	スウェーデン	608
05	クロアチア	607
06	ポルトガル	605
07	デンマーク	603
08	ギリシャ	602
09	オーストリア	600

高い英語能力

10	ドイツ	598
11	南アフリカ	594
12	ルーマニア	593
13	ベルギー	592
14	フィンランド	590
15	ポーランド	588
16	ブルガリア	586
17	ハンガリー	585
18	スロバキア	584
19	ケニア	581
20	エストニア	578
21	ルクセンブルク	576
22	フィリピン	570
23	リトアニア	569
24	セルビア	568
25	チェコ共和国	567
26	マレーシア	566
27	スリナム	563
28	アルゼンチン	562
29	キプロス	558
30	ナイジェリア	557
31	スイス	550

標準的な英語能力

32	香港(中国)	549
33	ホンジュラス	545
34	ジョージア	543
35	ベラルーシ	539
36	スペイン	538
36	ウルグアイ	538
38	アルメニア	537
39	モルドバ	536
40	ウクライナ	535
41	コスタリカ	534
41	ガーナ	534
43	アルバニア	533
44	ロシア	532
45	パラグアイ	531
46	イタリア	528
47	ボリビア	525

47	チリ	525
49	フランス	524
50	韓国	523
51	イスラエル	522
52	キューバ	520
53	ペルー	519
54	ウガンダ	518
55	エルサルバドル	513
56	ネパール	512
57	ベネズエラ	510
58	グアテマラ	507
59	ニカラグア	505
60	ドミニカ共和国	503
61	バングラデシュ	500

低い英語能力

62	イラン	499
63	エチオピア	498
63	ベトナム	498
65	トルコ	497
66	チュニジア	496
67	パキスタン	493
68	レバノン	492
69	インド	490
70	アラブ首長国連邦	489
71	パナマ	488
72	タンザニア	487
73	スリランカ	486
74	コロンビア	485
75	カタール	480
76	モロッコ	479
77	シリア	473

78	アルジェリア	471
79	モザンビーク	469
80	インドネシア	468
81	ブラジル	466
82	エクアドル	465
82	エジプト	465
84	モンゴル	464
85	マダガスカル	463
86	アゼルバイジャン	462
87	メキシコ	459
88	キルギス	457
89	カーボベルデ	456
89	クウェート	456
91	中華人民共和国	455
92	日本	454

非常に低い英語能力

93	ミャンマー	449
94	パレスチナ	448
95	アフガニスタン	447
95	マラウイ	447
97	カメルーン	445
98	ウズベキスタン	439
99	ハイチ	432
99	スーダーン	432
101	ヨルダン	431
102	セネガル	429
103	カザフスタン	427
104	オマーン	421
105	サウジアラビア	417
106	タイ	415
107	イラク	414
108	ベナン	413
109	タジキスタン	412
110	アンゴラ	409
111	カンボジア	408
112	リビア	405
113	ルワンダ	401
114	コートジボワール	399
114	ソマリア	399
116	イエメン	394

EF EPI 2024 首都 スコア

EF EPI スコア

- 非常に高い
- 高い
- 標準
- 低い
- 非常に低い



非常に高い英語能力

アムステルダム	657
コペンハーゲン	633
ウィーン	628
ヘルシンキ	627
リスボン	626
ザグレブ	626
ストックホルム	617
ベルリン	615
ベルン	614
オスロ	614
アテネ	613
ワルシャワ	612
ケープタウン	609
ブダペスト	606
ブラチスラバ	604
ブカレスト	601
ソフィア	601

高い英語能力

プラハ	596
マニラ	592
ベオグラード	590
タリン	589
ナイロビ	586
パリ	586
ピリニウス	585
プエノスアイレス	584
クアラルンプール	584
ブリュッセル	580
ラゴス	578
キシノウ	577
パラマリボ	569
モンテビデオ	567
テグシガルバ	563
キーウ	562
ソウル	562
アスンシオン	560
サンホセ	557
トビリシ	556
リマ	553
マドリード	553
サンティアゴ	552
アクラ	551
ラパス	551

標準的な英語能力

ミンスク	548
ニコシア	548
ローマ	548
ティラナ	547
バイルート	544
コロombo	543
エレバン	541
モスクワ	540
ブラジリア	538
テルアビブ	537
ダッカ	530
イスラマバード	530
カラカス	529
カトマンズ	526
サンサルバドル	526
アルジェ	525
アディスアベバ	524
ハノイ	524

ハバナ	523
ジャカルタ	523
サント・ドミンゴ	522
チュニス	522
キト	521
ダル・エス・サラーム	520
カンパラ	520
北京	518
グアテマラシティ	518
マナグア	517
テヘラン	514
ポゴタ	513
ラバト	510
アンカラ	505
マプト	503
ビシュケク	501

低い英語能力

東京	496
アブダビ	489
パナマシティ	489
ドーハ	485
アンタナリボ	483
ダマスカス	483
カイロ	481
アスタナ	469
クウェートシティ	469
ダカール	466
ウランバートル	466
ヤンゴン	466
バンコク	465
バクー	464
メキシコシティ	464
リロングウェ	459
プノンペン	457
タシュケント	457
アンマン	455
マスカット	453
カブール	451

非常に低い英語能力

ハルツーム	442
ドゥシャンベ	439
ポルトー・プランス	437
ヤウンデ	436
コトヌー	432
プライア	429
バグダッド	427
トリポリ	421
サナア	420
リヤド	416
キガリ	412
ルアンダ	412
アビジャン	410
デリー	406
モガディシュ	375

1,200を超える地域と都市の英語能力スコア、および国別、地域別の性別、年齢、業種のデータはwww.ef.com/epiからダウンロードできます。

EF EPI 詳細データ

テストの受験者について

2.1M

総受験者数



54%

女性



26 歳

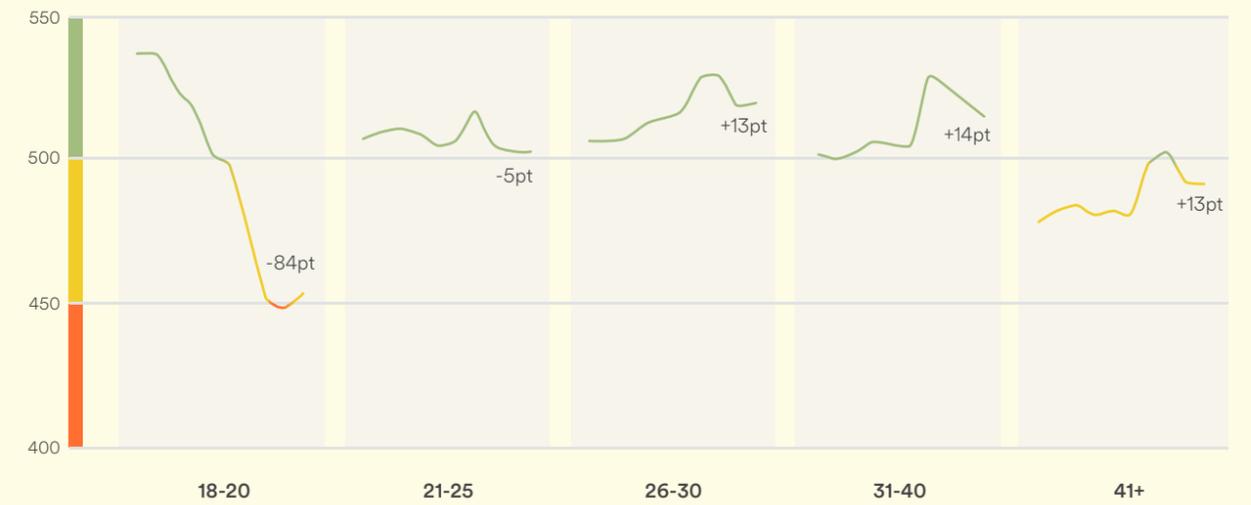
年齢の中央値



46%

男性

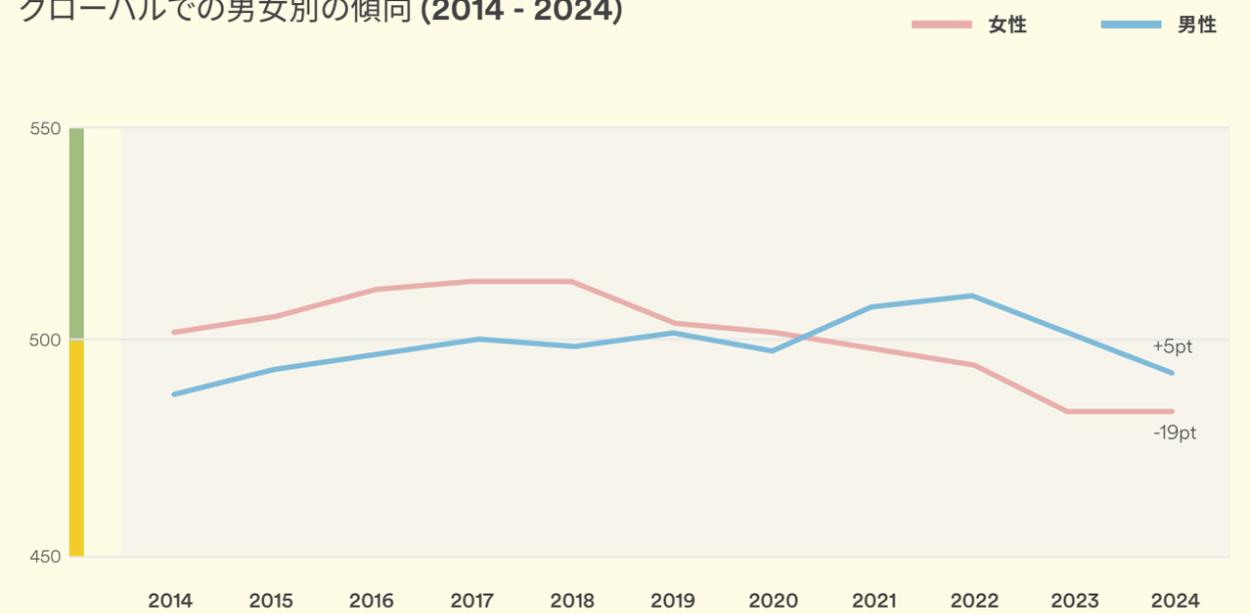
グローバルでの世代の傾向 (2015 - 2024)



地域別の傾向 (2011 - 2023)



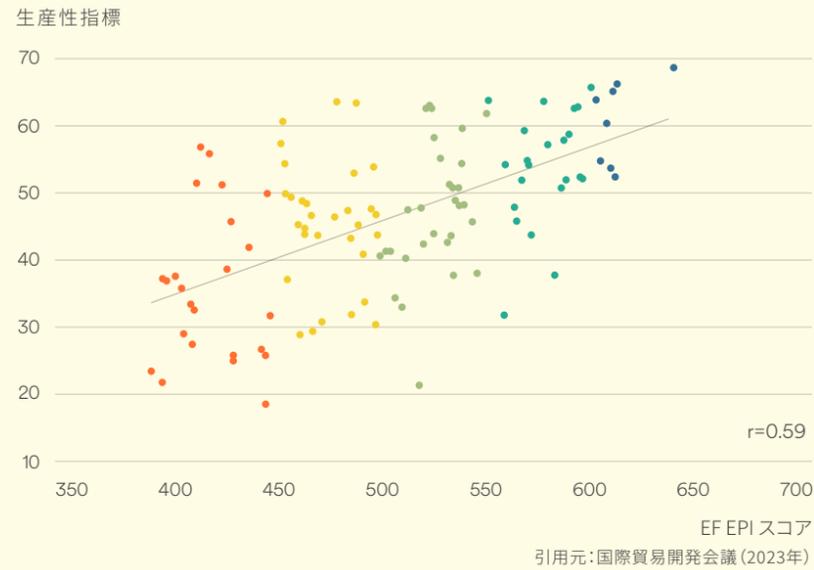
グローバルでの男女別の傾向 (2014 - 2024)



英語と経済

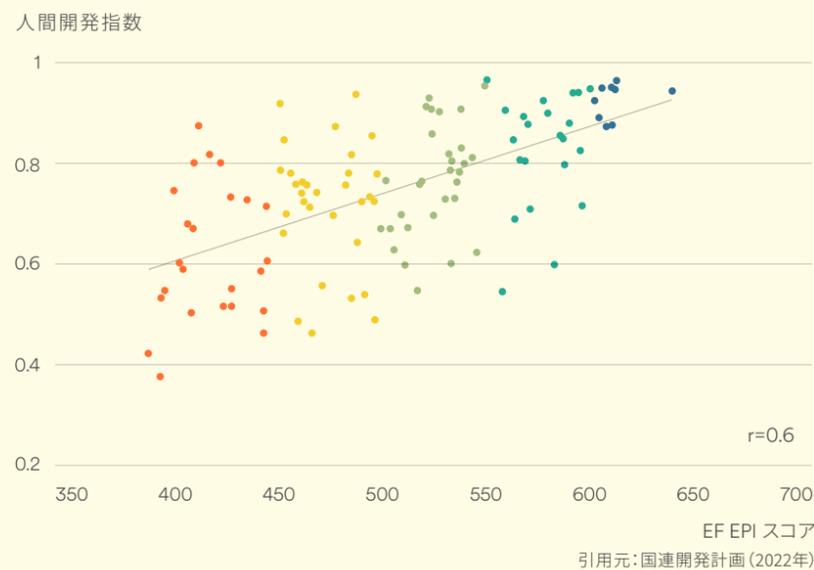
英語力は、経済成長をもたらす、財やサービスを生産する国の能力を示す合理的な指標であり続けています。また、教育、医療、適正な生活水準を提供することで、人々が潜在能力を最大限に発揮できるようにするための国家投資との相関関係があります。強い英語力を持つ成人は、特にその能力が経済のあらゆる部門に広がっている場合、より柔軟で外向きの労働力を示す指標となります。

グラフ A
英語と生産性



- EF EPI スコア
- 非常に高い
 - 高い
 - 標準
 - 低い
 - 非常に低い

グラフ B
英語と人間開発

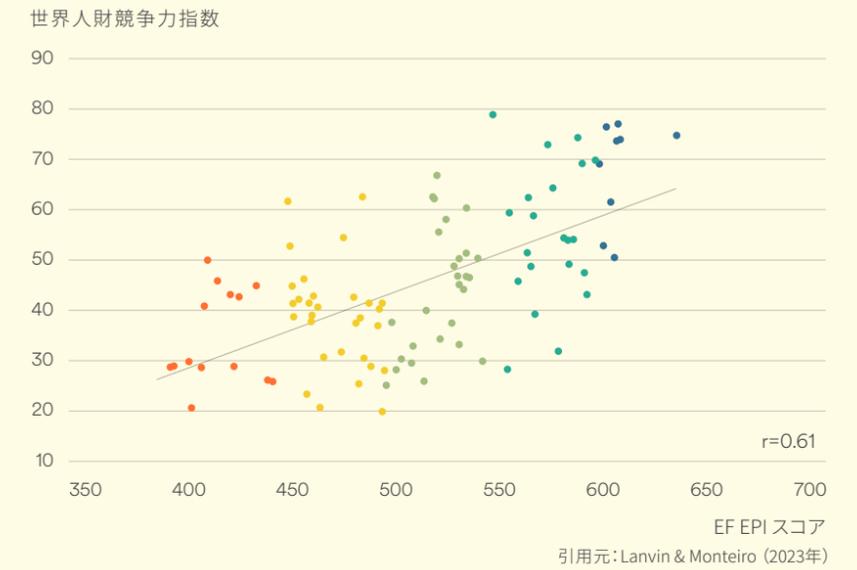


英語とイノベーション

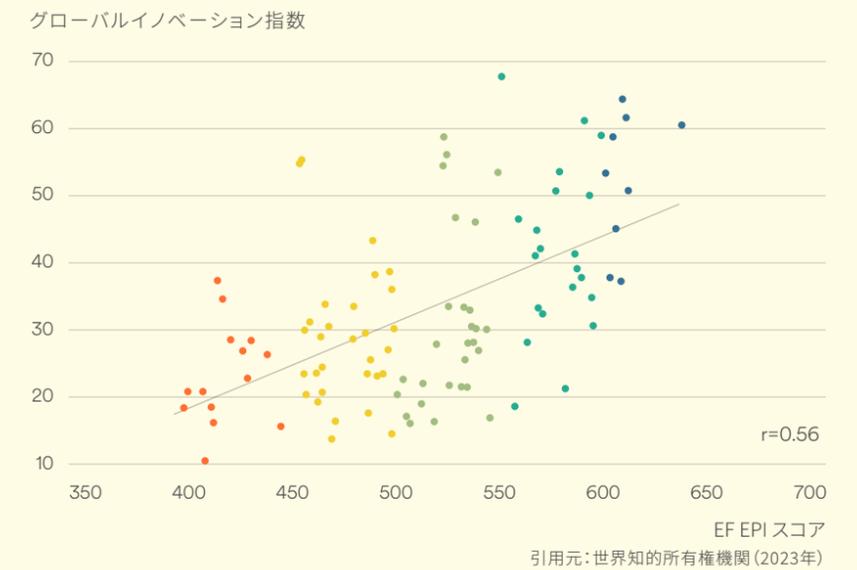
英語力の向上は、情報へのアクセスを容易にし、多様なバックグラウンドを持つ専門家同士のコラボレーションを可能にすることで、イノベーションの障壁を低くします。このイノベーションが同じオフィス内で生まれるにせよ、大陸を越えて行われるにせよ、アイデアの流れを自由にすることは効率的です。AIはすでにくつかの言語のギャップを埋める手助けをしていますが、英語ベースのAIサービスの優れた性能により、英語を話せる人は他の人が利用できるものよりもはるかに強力なAIアシスタントを利用できるようになり、英語能力の価値は時間の経過とともに向上する可能性があります。

- EF EPI スコア
- 非常に高い
 - 高い
 - 標準
 - 低い
 - 非常に低い

グラフ C
英語と人財競争力



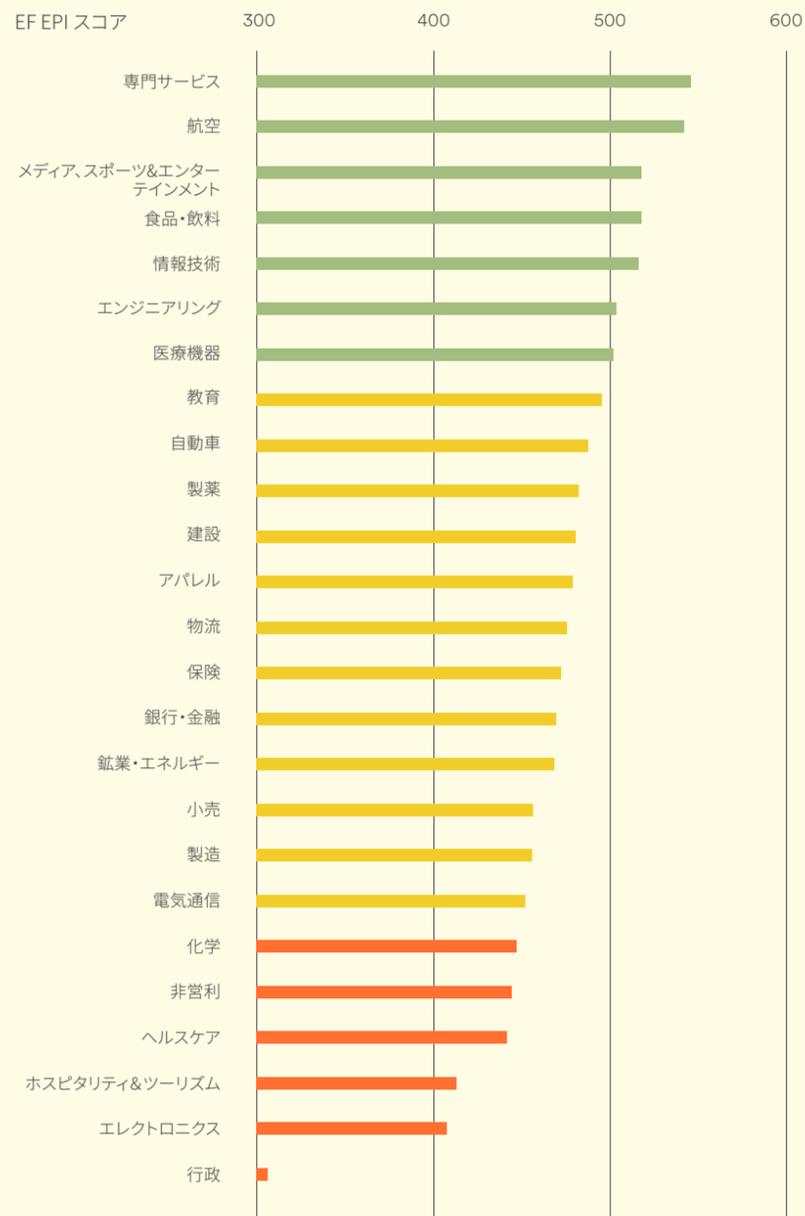
グラフ D
英語とグローバルイノベーション



職場における英語

英語はあらゆる産業で国際協力のカギを握っており、すべての業界がグローバル化の影響を受けています。業界間の英語能力の差は、特定の経済セクターで英語の需要が不足しているためではなく、現在または過去の雇用慣行や訓練慣行に起因することが大きいとされています。一方で、多くの従業員が自国の平均より高い英語力を持っていても、グローバルな市場で競争する際に、業界全体で遅れをとっている企業は依然として苦戦を強いられる可能性が高いと言えます。

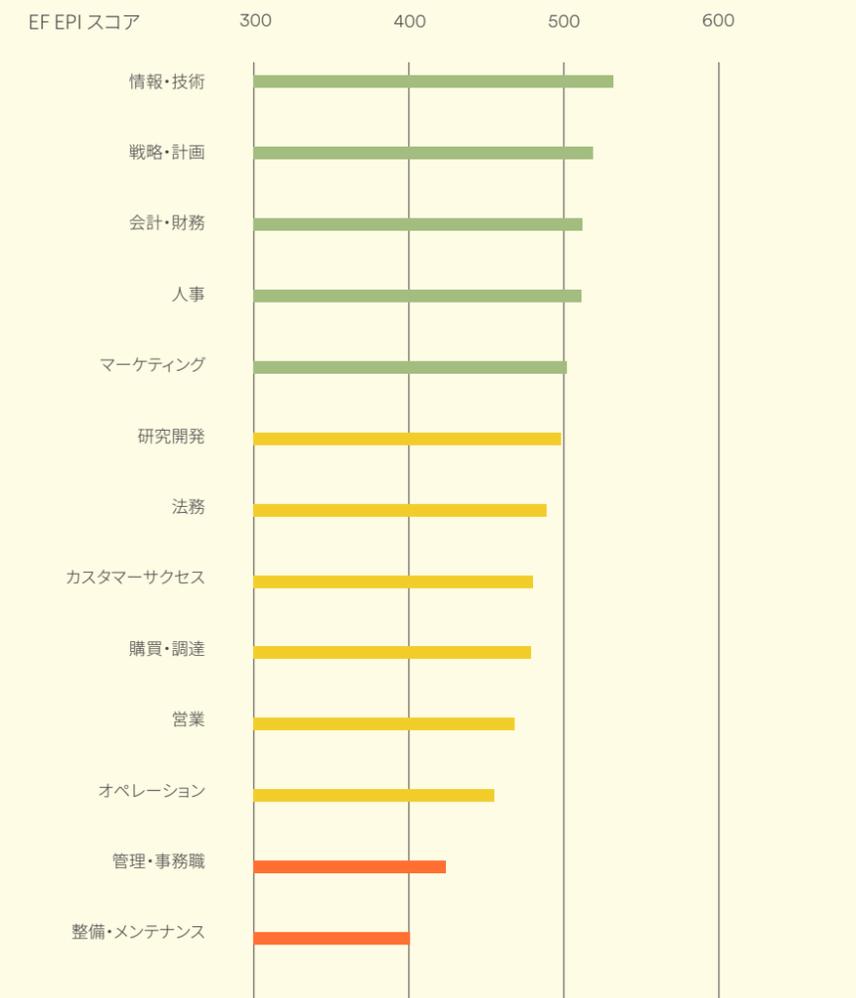
業種別 EF EPI



EF EPI スコア ●非常に高い ●高い ●標準 ●低い ●非常に低い

多くのプロフェッショナルにとって、英語力が平均以下であることはキャリアの障壁となり、情報へのアクセスを制限してしまいます。昇進のために国際的なチームが集まる中央オフィスへの転勤を余儀なくされると、英語を話せない人は動きが取れなくなります。この問題は、英語が得意でなく、職場で英語を使う機会が少ない保守的な職種や事務職の人々にとって特に深刻です。雇用主は、困難を抱えている可能性のある人を特定し、ターゲットを絞ったトレーニングプログラムに資金を提供したり、異なる国のチームが協力できる機会を作ることで支援できます。このリストに挙げられているプログラミング、会計、マーケティングなどの分野は特にリモートワークに向いているため、これらの職務を目指す候補者は国際的な応募者との競争にさらされる可能性があります。

職務別 EF EPI

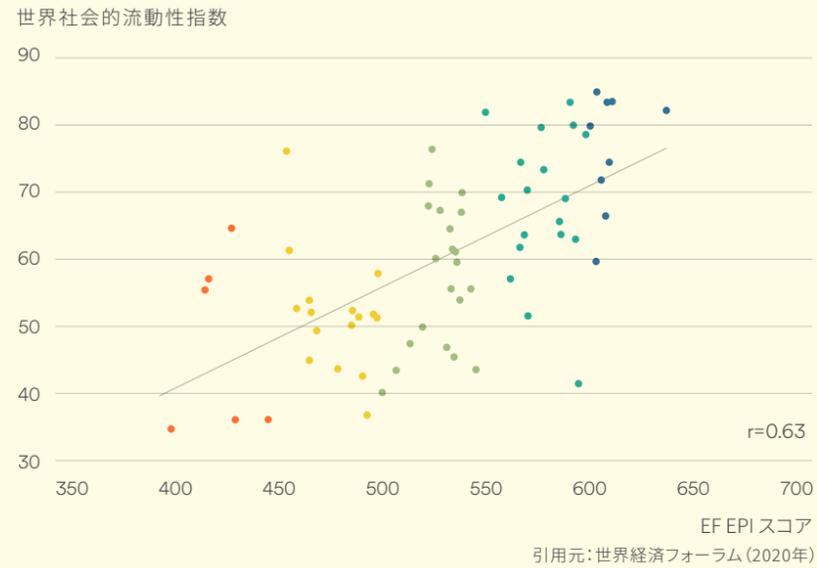


EF EPI スコア ●非常に高い ●高い ●標準 ●低い ●非常に低い

英語と社会

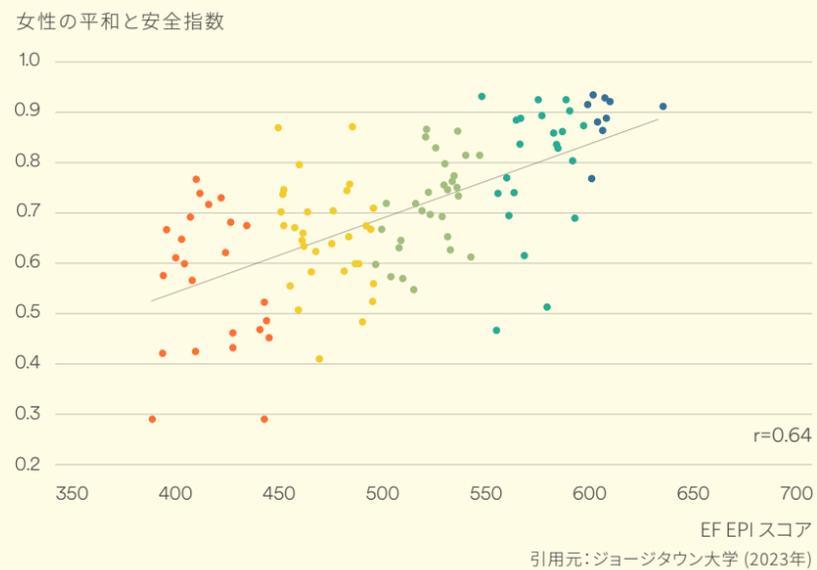
人々にとって英語は、情報への幅広いアクセス、より高い所得、より多様な教育機会、地域の労働市場からのさらなる独立といった可能性を切り開くものになります。その結果、教育システムにおける英語教育のレベルを向上させ、英語能力開発を支援することは、他の教育への投資と同様に、彼らの潜在能力を最大限に引き出すことにつながるのです。

グラフ E
英語とソーシャル・モビリティ(社会的流動性)



- EF EPI スコア
- 非常に高い
 - 高い
 - 標準
 - 低い
 - 非常に低い

グラフ F
英語と男女平等

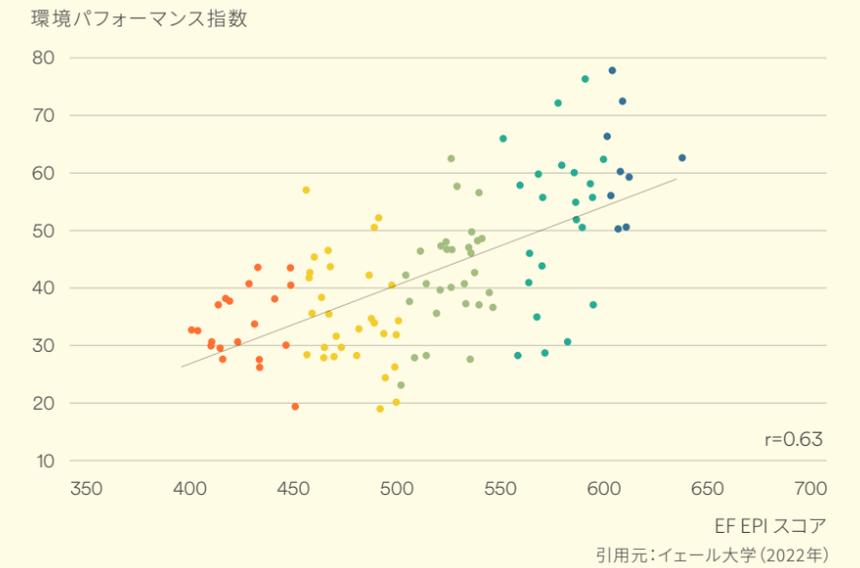


英語と未来

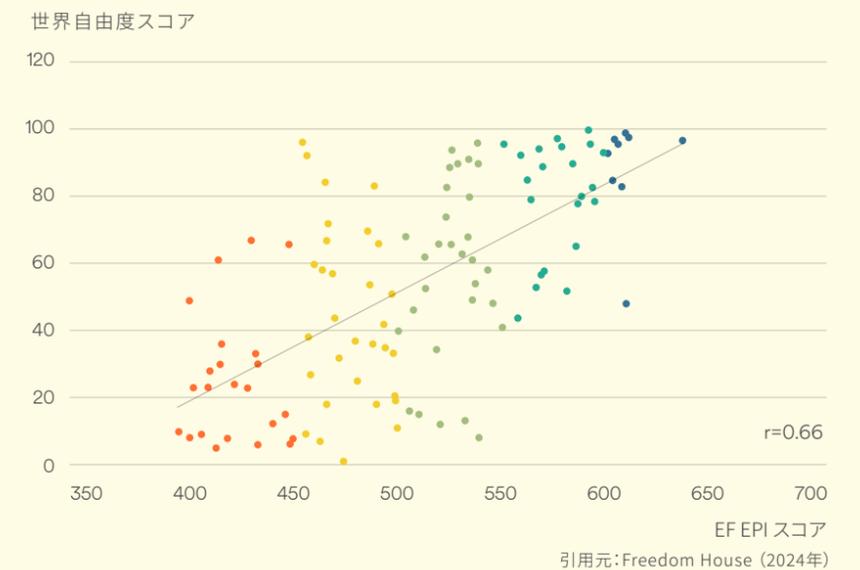
英語を話すことで、人々は自分の環境を超えた人々と関わり合い、彼らの抱える課題や優先事項、彼らが被る不公平、そして未来への夢についての理解を深めることができます。気候危機に対処するには、前例のないレベルの国際的な連帯と決意が必要です。高レベルな外交から多国籍の活動、重要な科学研究、国境を越えた個人的なつながりに至るまで、英語は世界的な理解と協力のための重要な手段となっています。

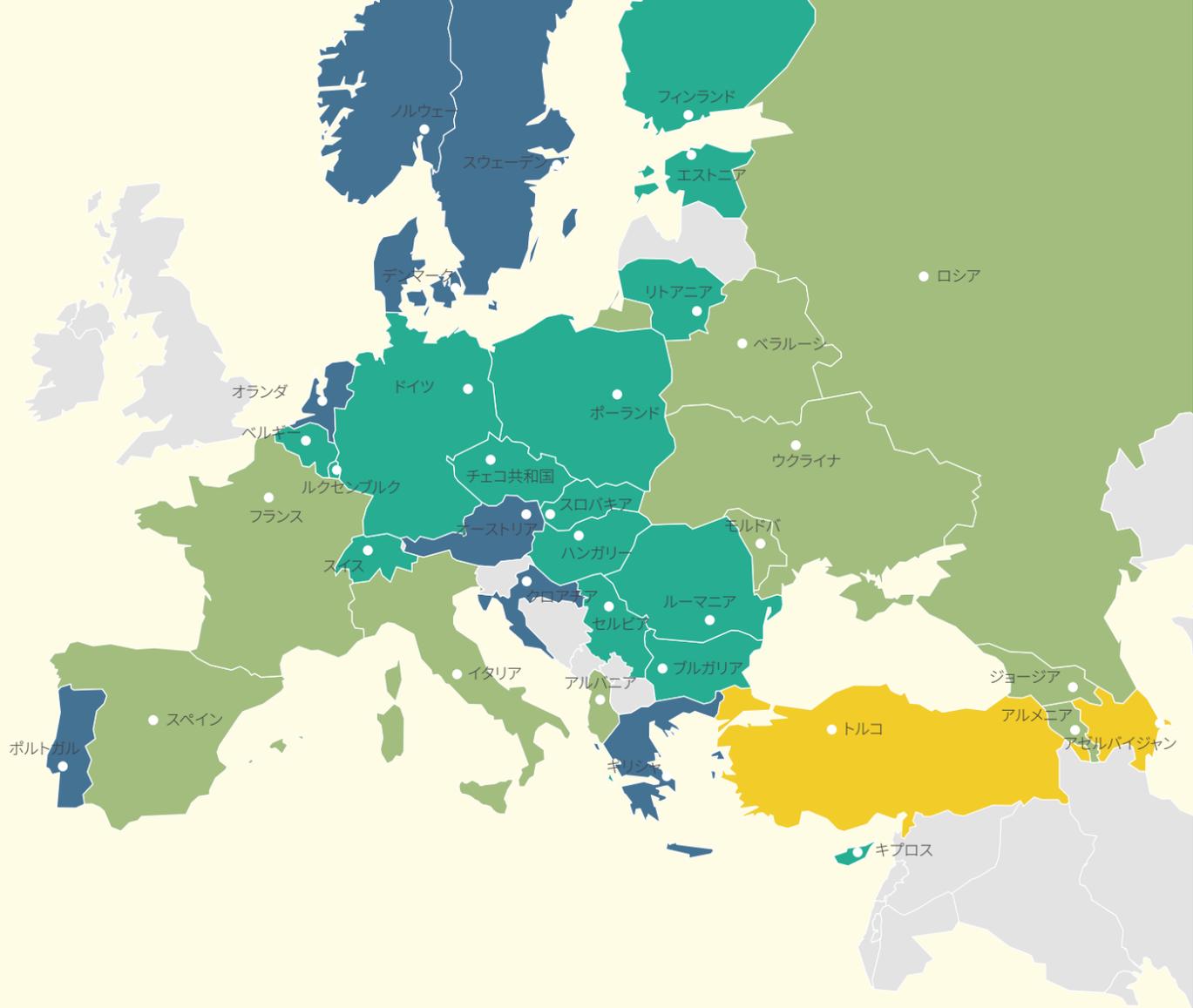
- EF EPI スコア
- 非常に高い
 - 高い
 - 標準
 - 低い
 - 非常に低い

グラフ G
英語と環境



グラフ H
英語と自由





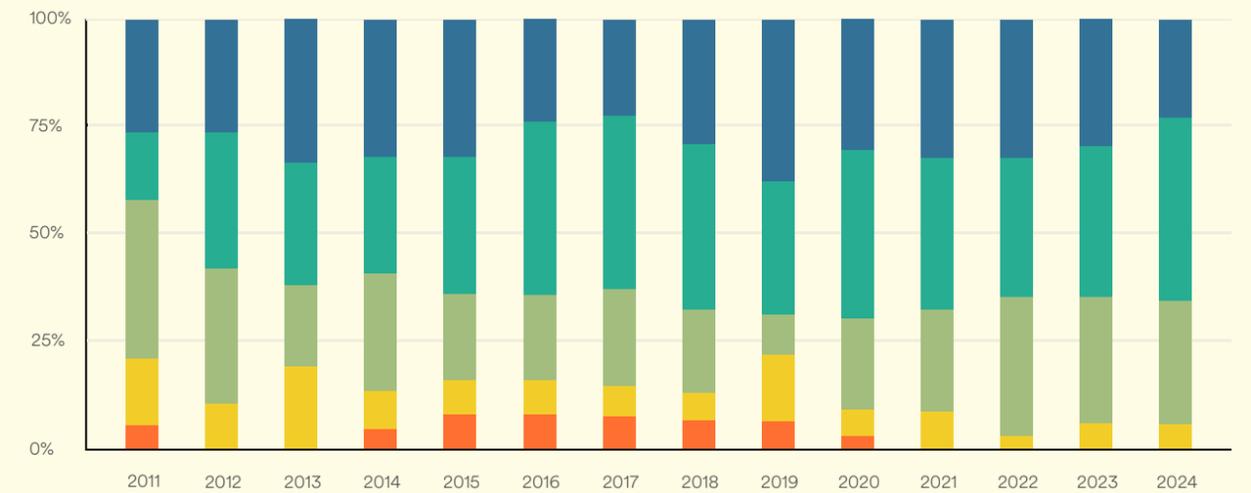
ヨーロッパ

EF EPI ランキング

01 オランダ	636	14 フィンランド	590	34 ジョージア	543
02 ノルウェー	610	15 ポーランド	588	35 ベラルーシ	539
04 スウェーデン	608	16 ブルガリア	586	36 スペイン	538
05 クロアチア	607	17 ハンガリー	585	38 アルメニア	537
06 ポルトガル	605	18 スロバキア	584	39 モルドバ	536
07 デンマーク	603	20 エストニア	578	40 ウクライナ	535
08 ギリシャ	602	21 ルクセンブルク	576	43 アルバニア	533
09 オーストリア	600	23 リトアニア	569	44 ロシア	532
10 ドイツ	598	24 セルビア	568	46 イタリア	528
12 ルーマニア	593	25 チェコ共和国	567	49 フランス	524
13 ベルギー	592	29 キプロス	558	65 トルコ	497
		31 スイス	550	86 アゼルバイジャン	462

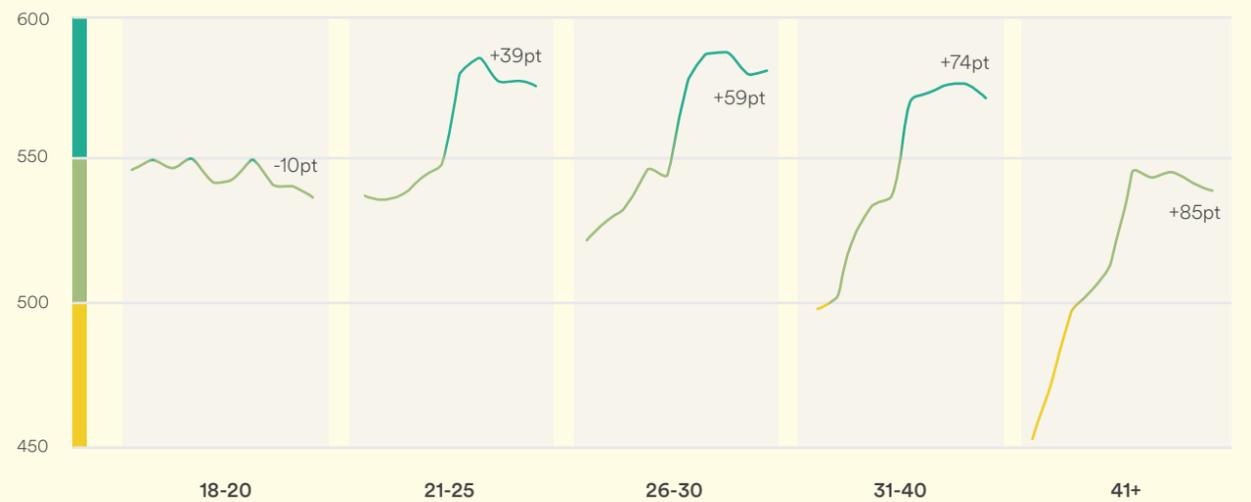
EF EPI スコア ●非常に高い ●高い ●標準 ●低い ●非常に低い

英語能力レベルの分布 (2011 - 2024)

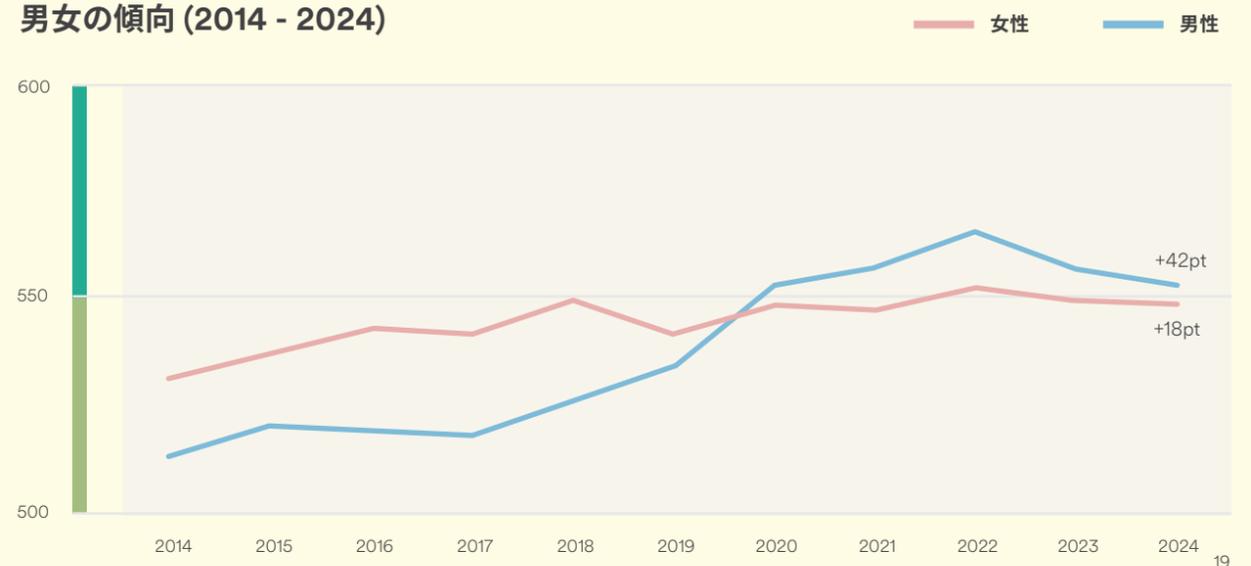


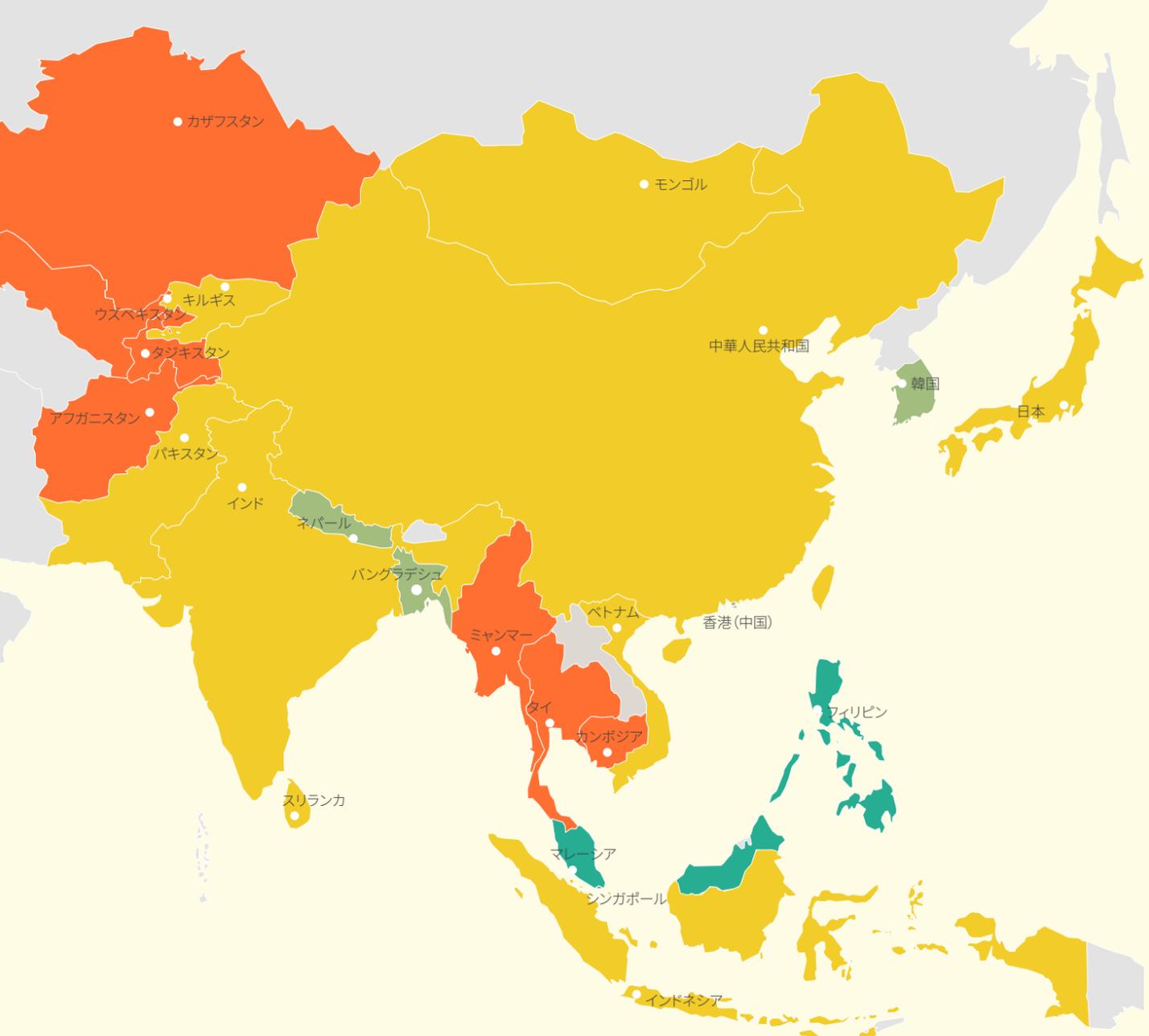
各能力レベルに占める欧州諸国の割合 (経年推移)

世代間の傾向 (2015 - 2024)



男女の傾向 (2014 - 2024)





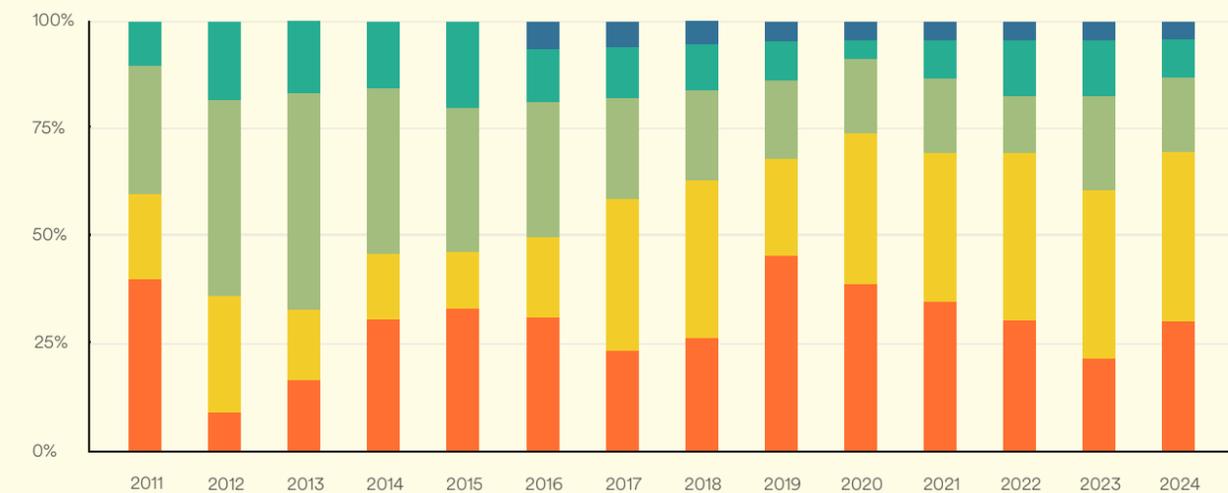
アジア

EF EPI ランキング

3	シンガポール	609	63	ベトナム	498	93	ミャンマー	449
22	フィリピン	570	67	パキスタン	493	95	アフガニスタン	447
26	マレーシア	566	69	インド	490	98	ウズベキスタン	439
32	香港(中国)	549	73	スリランカ	486	103	カザフスタン	427
50	韓国	523	80	インドネシア	468	106	タイ	415
56	ネパール	512	84	モンゴル	464	109	タジキスタン	412
61	バングラデシュ	500	88	キルギス	457	111	カンボジア	408
			91	中華人民共和国	455			
			92	日本	454			

EF EPI スコア ●非常に高い ●高い ●標準 ●低い ●非常に低い

英語能力レベルの分布 (2011 - 2024)

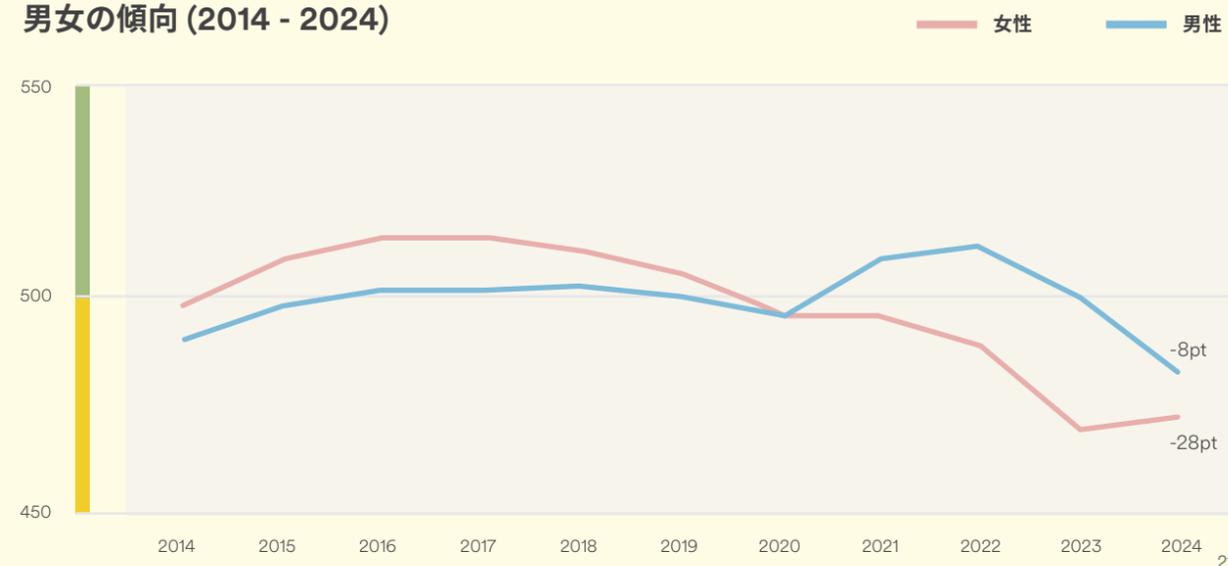


各能力レベルに占めるアジア諸国・地域の割合 (経年推移)

世代間の傾向 (2015 - 2024)



男女の傾向 (2014 - 2024)



中南米

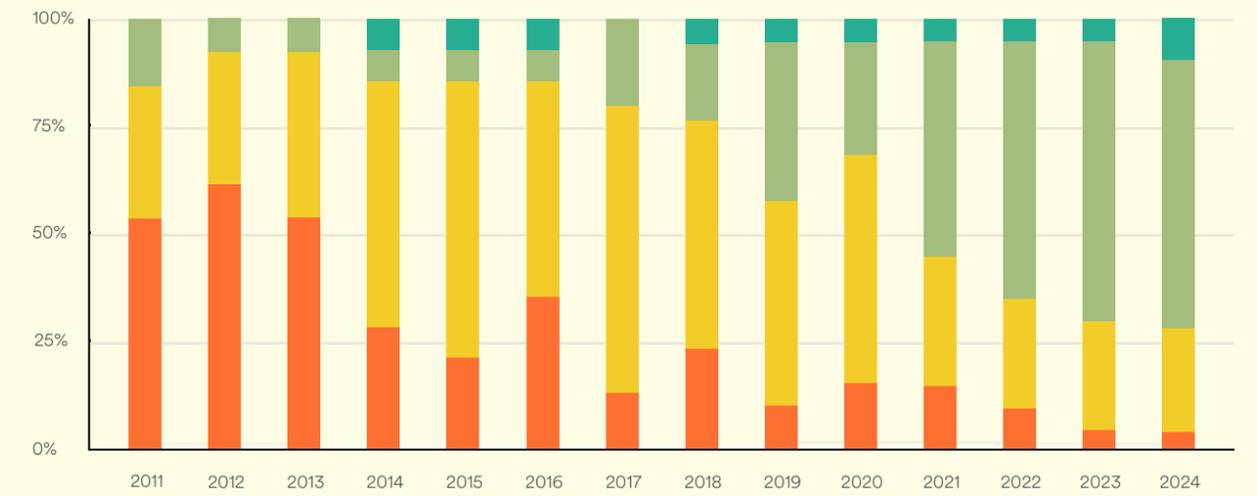


EF EPI ランキング

27	スリナム	563	57	ベネズエラ	510
28	アルゼンチン	562	58	グアテマラ	507
33	ホンジュラス	545	59	ニカラグア	505
36	ウルグアイ	538	60	ドミニカ共和国	503
41	コスタリカ	534	71	パナマ	488
45	パラグアイ	531	74	コロンビア	485
47	ボリビア	525	81	ブラジル	466
47	チリ	525	82	エクアドル	465
52	キューバ	520	87	メキシコ	459
53	ペルー	519	99	ハイチ	432
55	エルサルバドル	513			

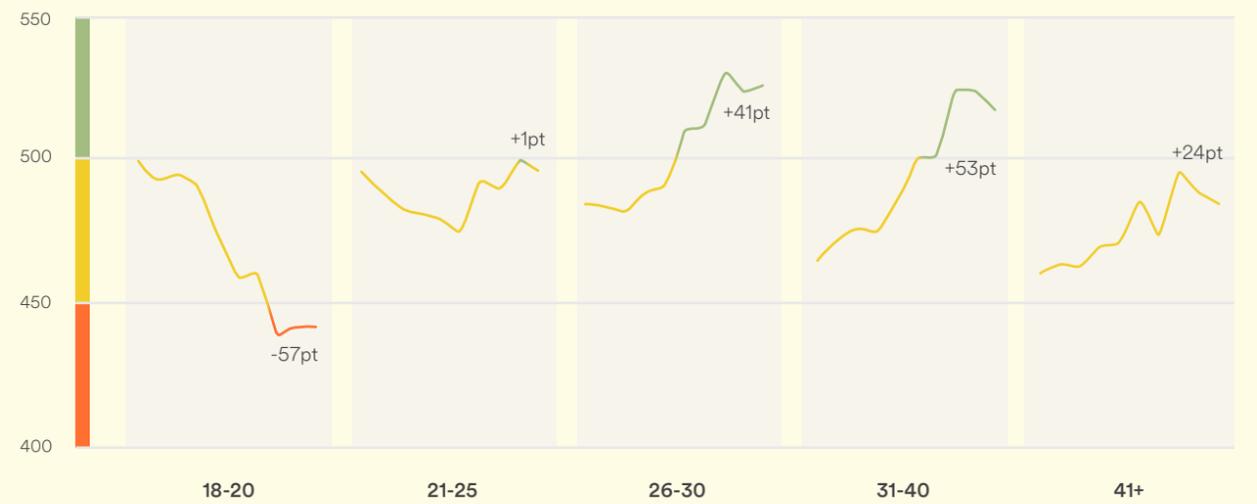
EF EPI スコア ●非常に高い ●高い ●標準 ●低い ●非常に低い

英語能力レベルの分布 (2011 - 2024)

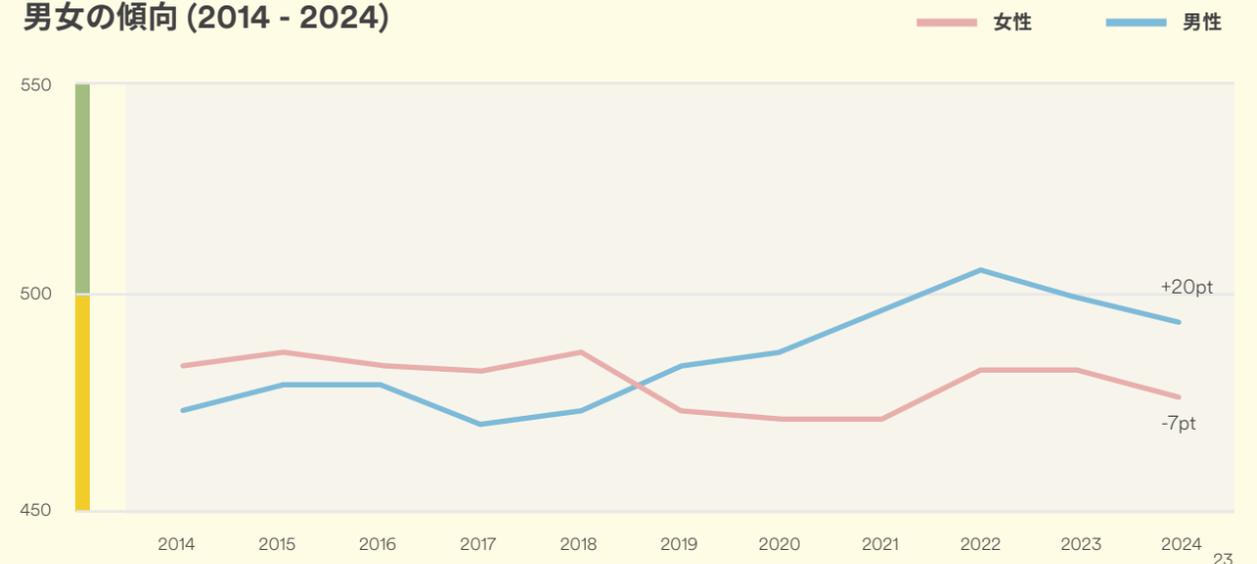


各能力レベルに占めるラテンアメリカ諸国の割合 (経年推移)

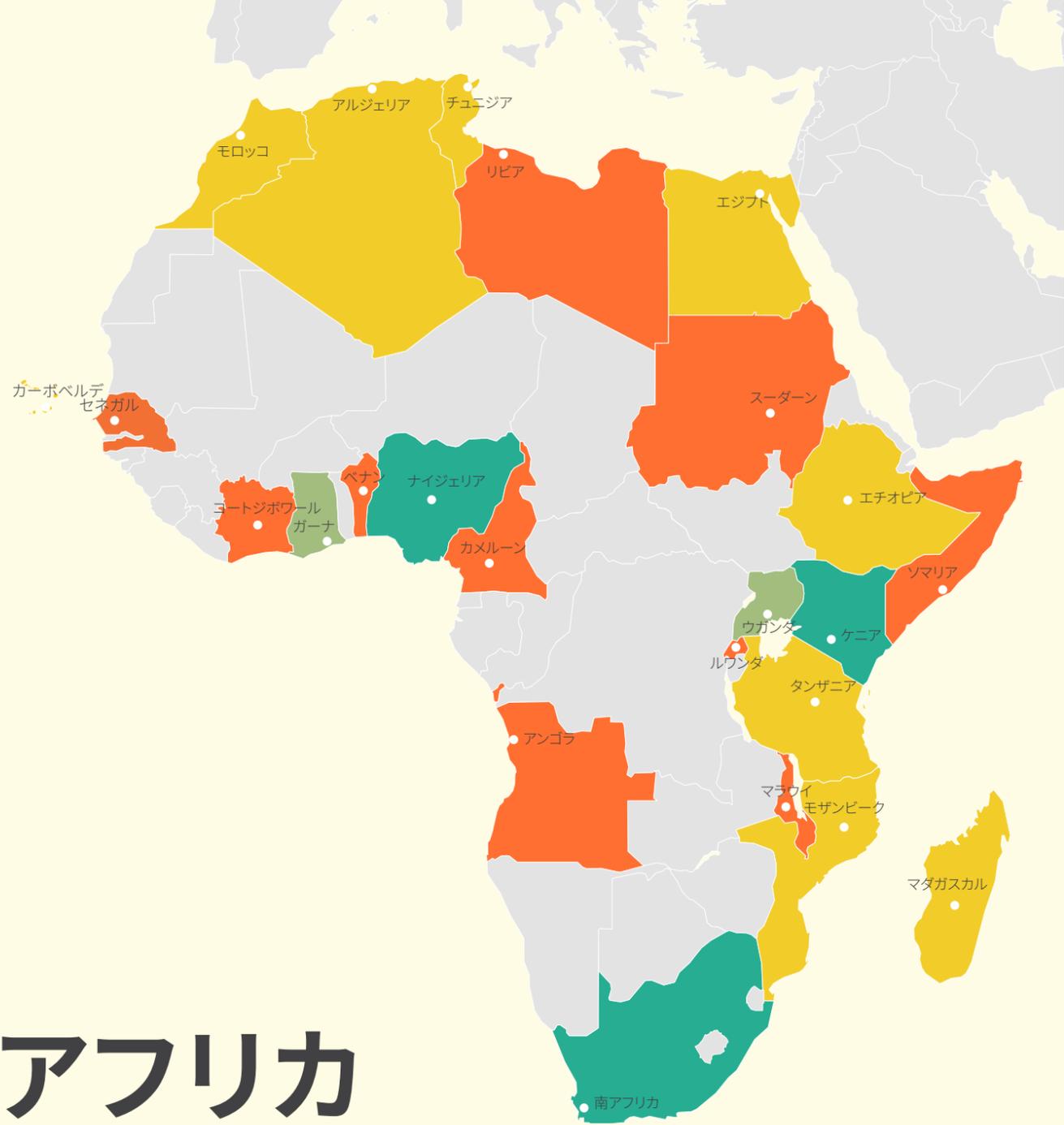
世代間の傾向 (2015 - 2024)



男女の傾向 (2014 - 2024)



アフリカ

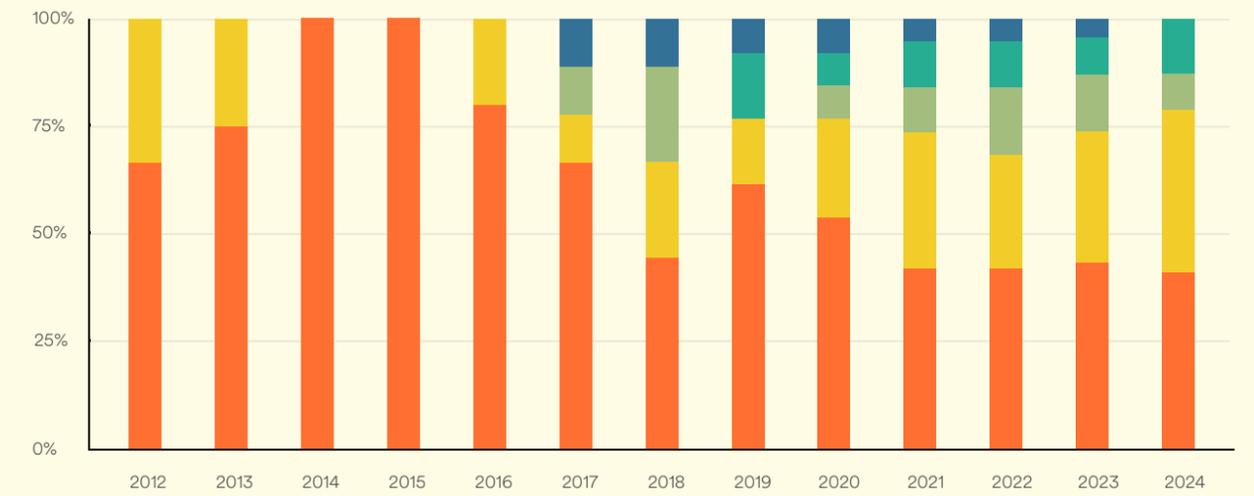


EF EPI ランキング

11	南アフリカ	594	79	モザンビーク	469	112	リビア	405
19	ケニア	581	82	エジプト	465	113	ルワンダ	401
30	ナイジェリア	557	85	マダガスカル	463	114	ソマリア	399
41	ガーナ	534	89	カーボベルデ	456	114	コートジボワール	399
54	ウガンダ	518	95	マラウイ	447			
63	エチオピア	498	97	カメルーン	445			
66	チュニジア	496	99	スーダン	432			
72	タンザニア	487	102	セネガル	429			
76	モロッコ	479	108	ベナン	413			
78	アルジェリア	471	110	アンゴラ	409			

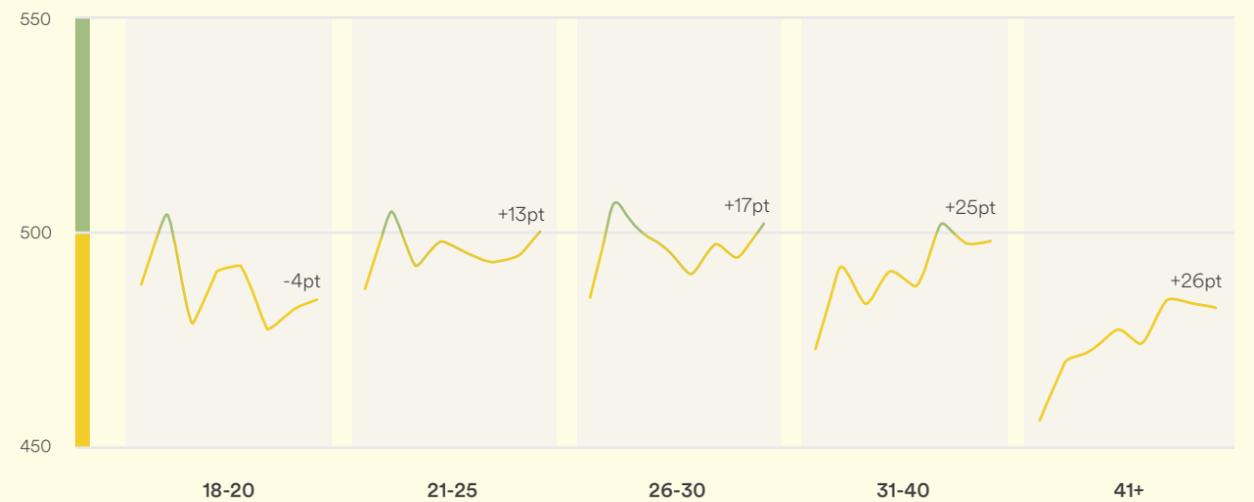
EF EPI スコア ●非常に高い ●高い ●標準 ●低い ●非常に低い

英語能力レベルの分布 (2012 - 2024)

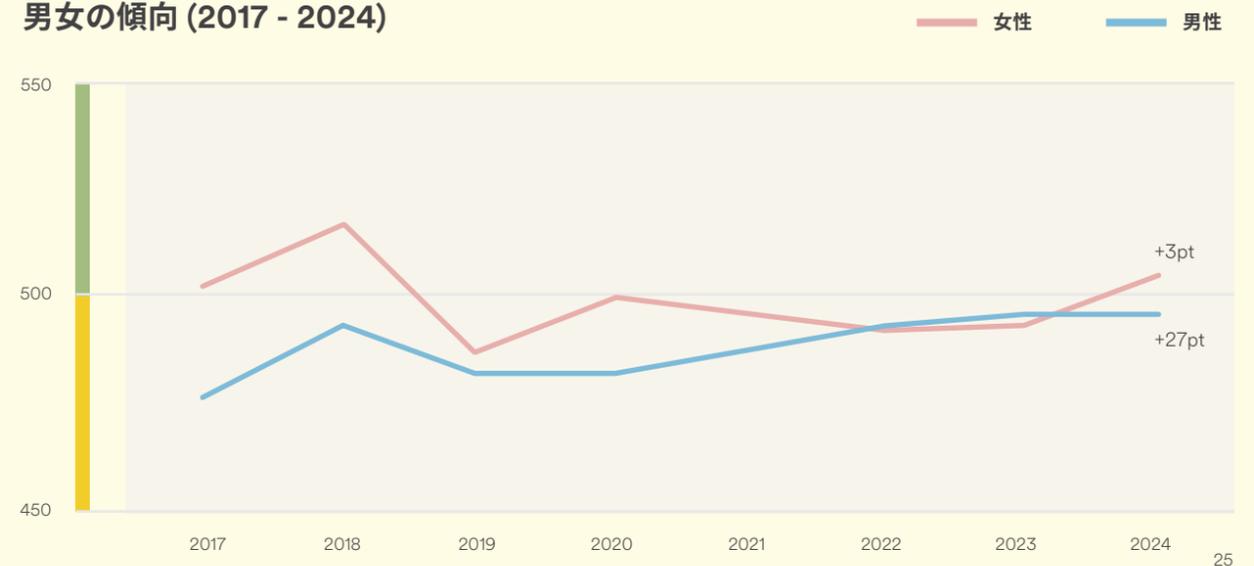


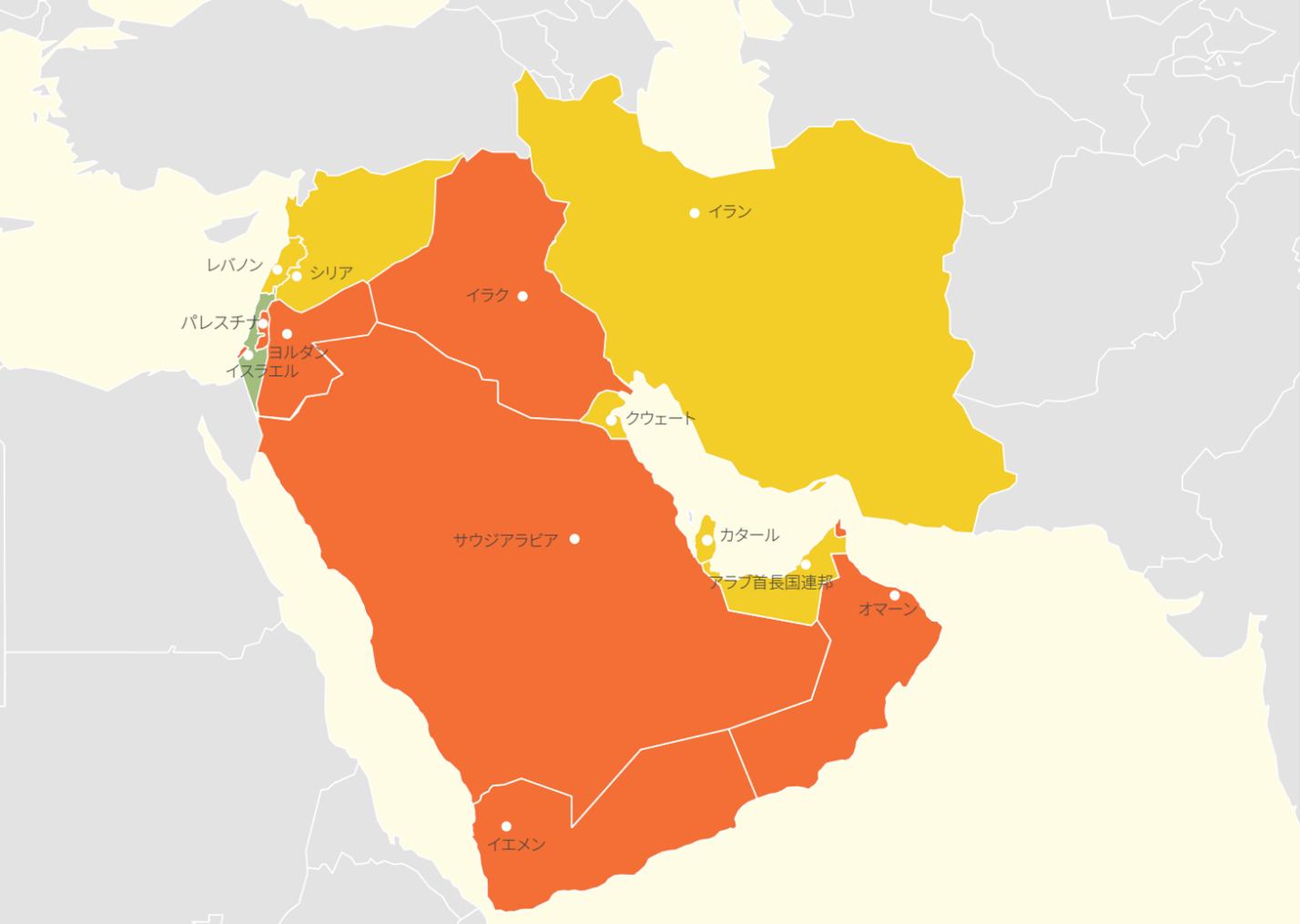
各能力レベルに占めるアフリカ諸国の割合 (経年推移)

世代間の傾向 (2017 - 2024)



男女の傾向 (2017 - 2024)





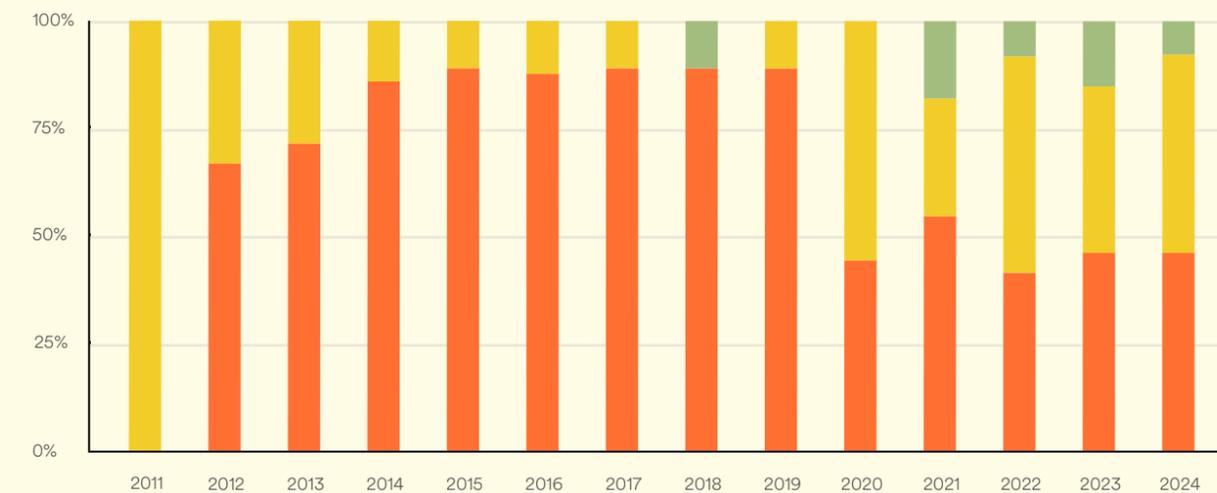
中東

EF EPI ランキング

51	イスラエル	522	94	パレスチナ	448
62	イラン	499	101	ヨルダン	431
68	レバノン	492	104	オマーン	421
70	アラブ首長国連邦	489	105	サウジアラビア	417
75	カタール	480	107	イラク	414
77	シリア	473	116	イエメン	394
89	クウェート	456			

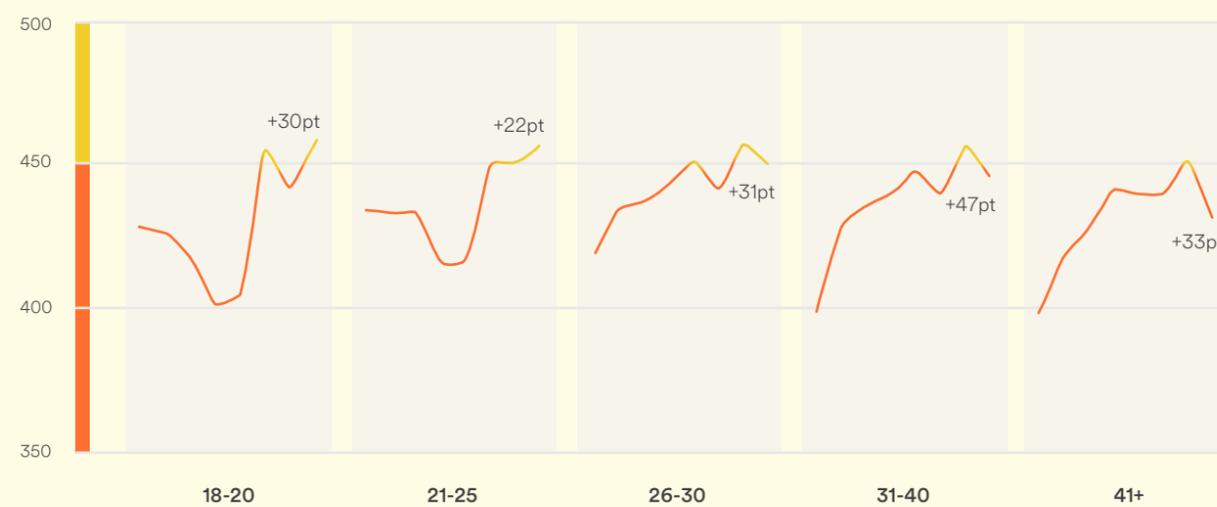
EF EPI スコア ●非常に高い ●高い ●標準 ●低い ●非常に低い

英語能力レベルの分布 (2011 - 2024)

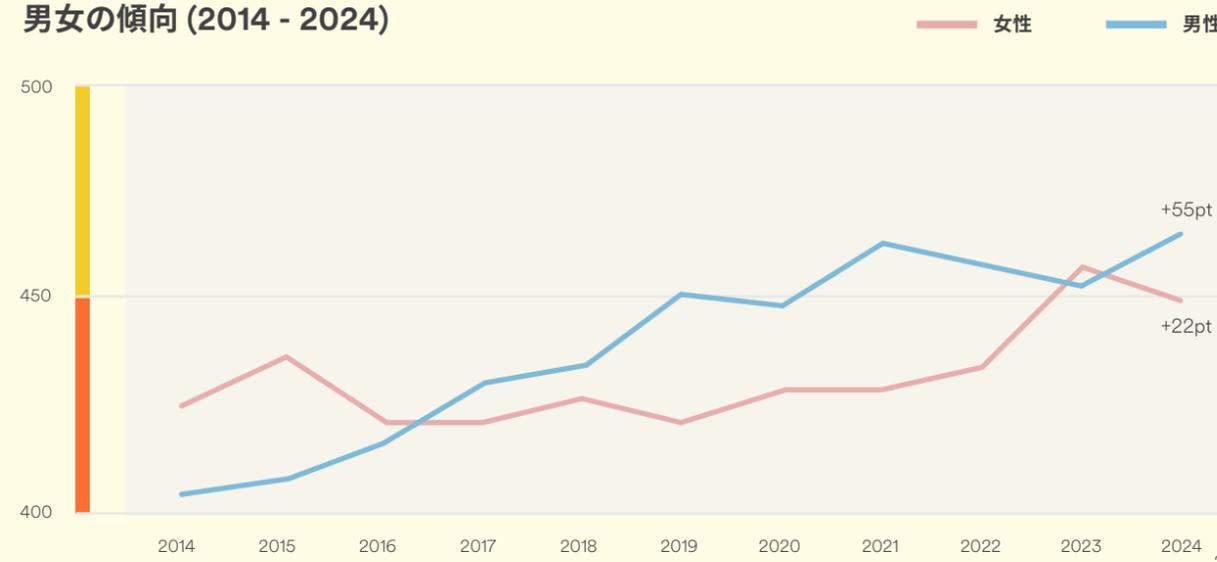


各能力レベルに占める中東諸国の割合 (経年推移)

世代間の傾向 (2017 - 2024)

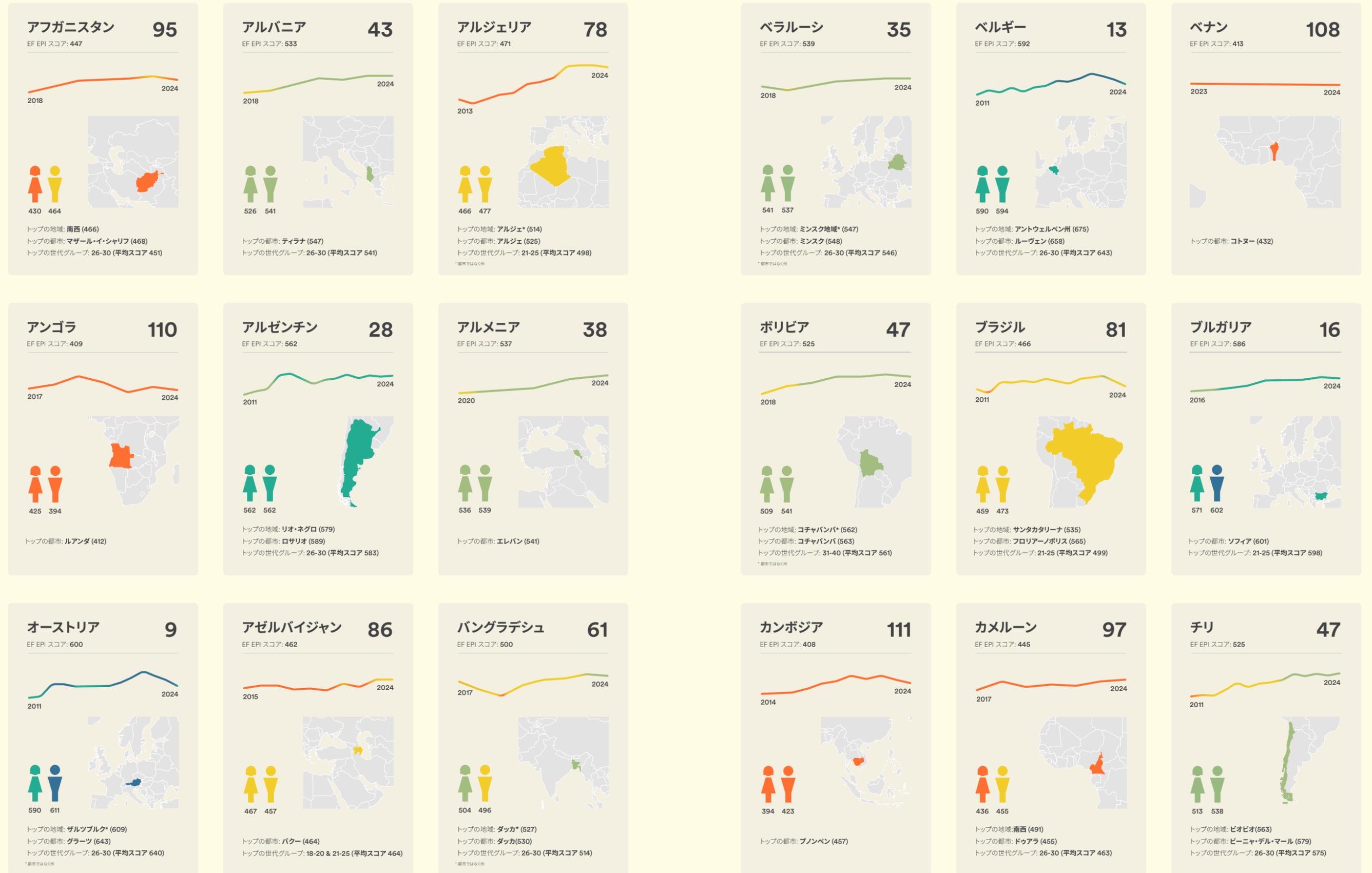


男女の傾向 (2014 - 2024)



英語能力レベルの詳細

詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。



英語能力レベルの詳細

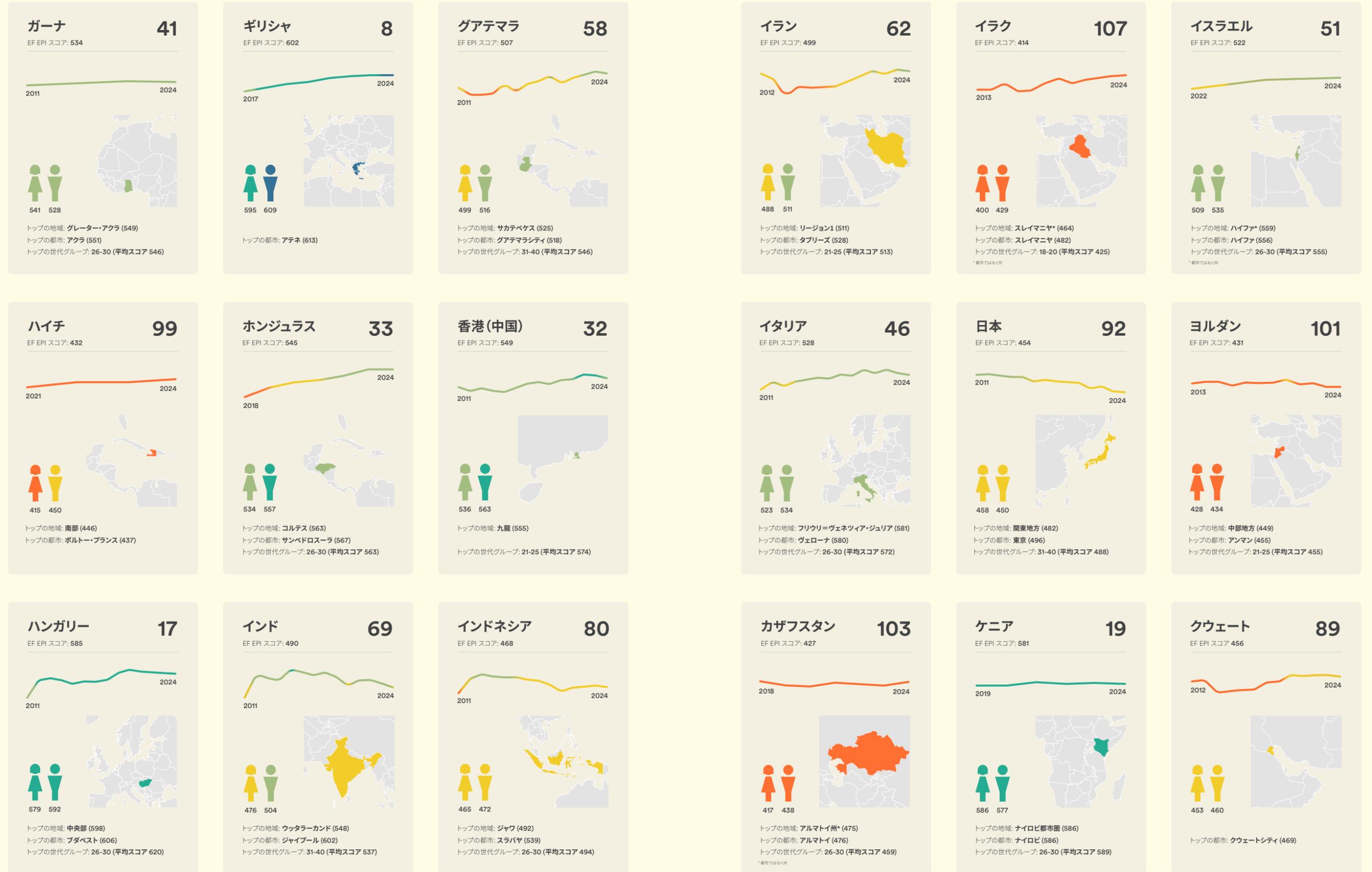
詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。



英語能力レベルの詳細

詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。

ドミニカ共和国



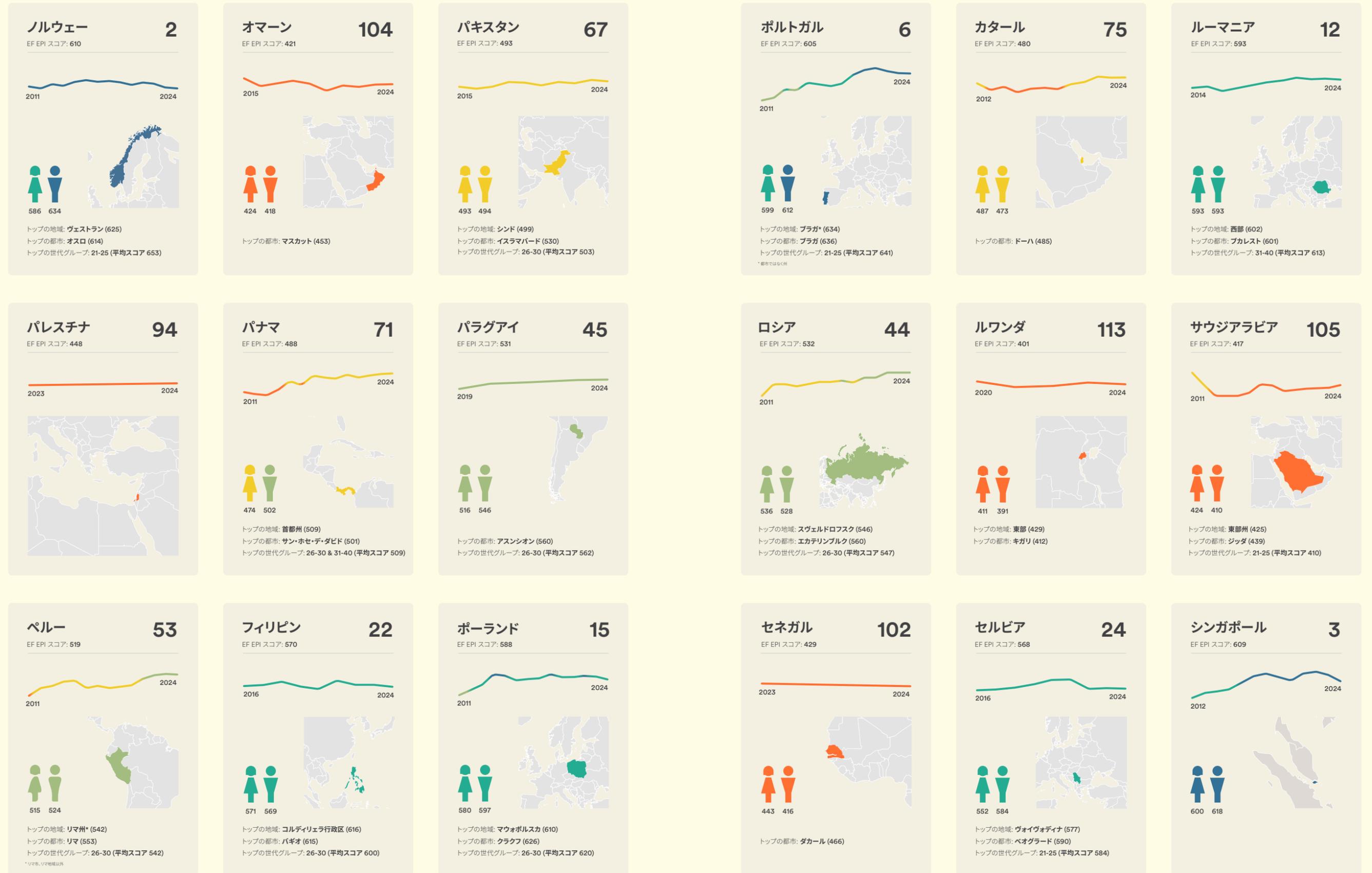
英語能力レベルの詳細

詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。



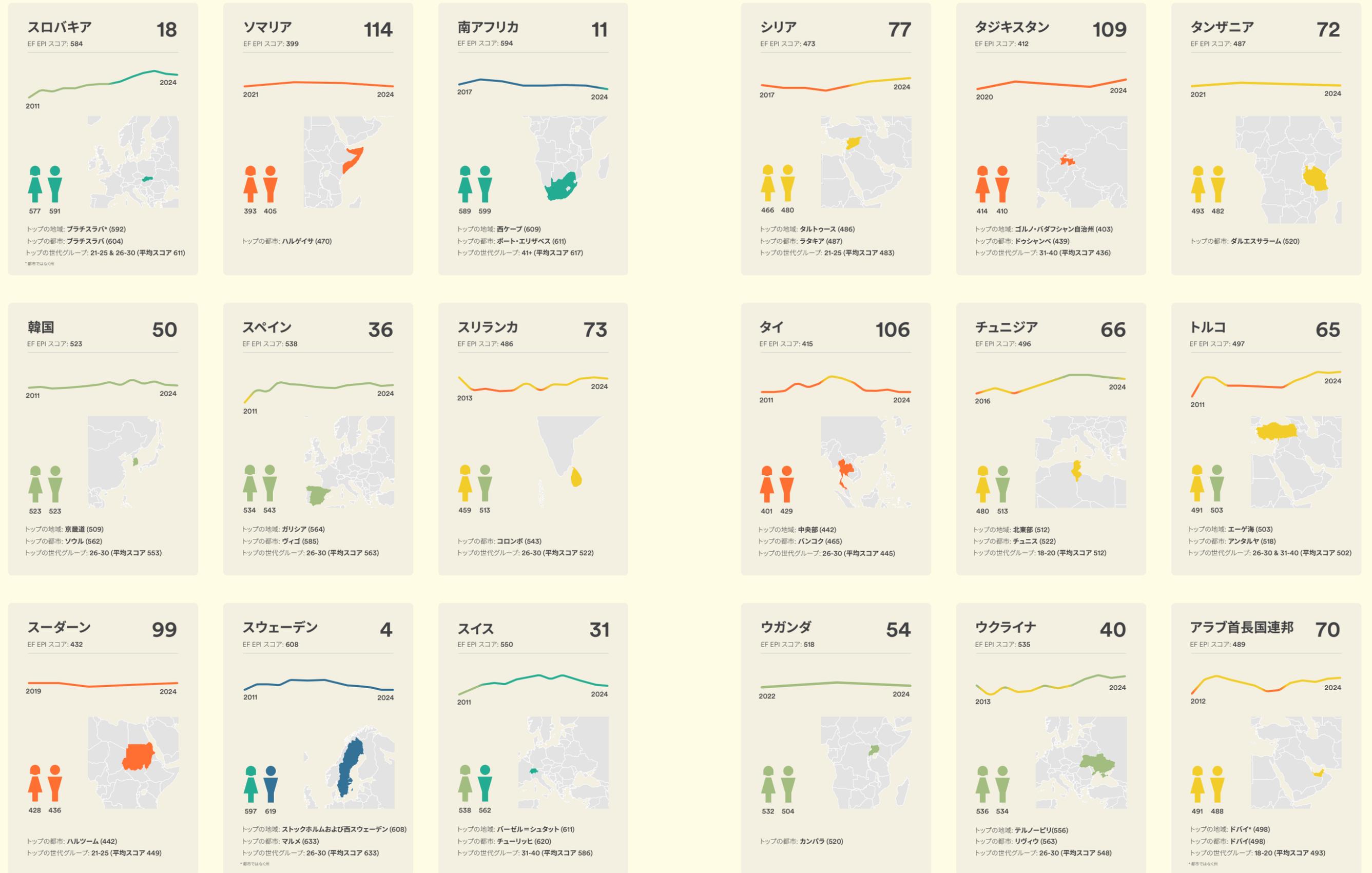
英語能力レベルの詳細

詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。



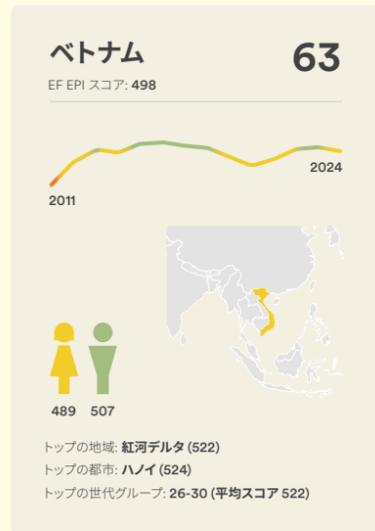
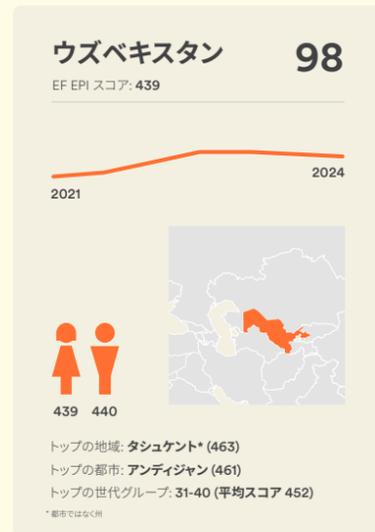
英語能力レベルの詳細

詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。



英語能力レベルの詳細

詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。



結論

このレポートの結果をもとに、英語がすでに普及した、非常に重要なものであると判断したり、専門的な分野や個人の成功が英語の習得によるものだと勘違いする人も多くいます。それは明らかに誤りです。ほとんどの人は英語で仕事をしたり勉強したりしておらず、日常生活で英語を定期的に使用している人は全体の中でもさらに少ないと言えます。何十億人もの人々が簡単な英語を知っており、何億人もの人々が会話ができる程度の英語を話しますが、その大多数はは日常的に英語を使うのではなく、その必要もない人です。

しかし、英語研修に対する世界的な需要は、かつてないほど高まってきています。英語を使うことで、人々はより幅広い文脈で専門的なスキルを活用できるようになります。より多様な情報ソースにアクセスでき、必要時に英語で自分の考えを多くの人々と共有できるようになります。いずれも幸せな社会生活や人生の成功のための必須事項とまでは行きませんが、グローバル化した世界では、英語を話すことで未来の可能性が開かれると言えるでしょう。

本レポートは、英語習得へ投資する人々が、その取り組みの効果を測定するだけでなく、すでにされている取り組みを振り返らせ、より適切な投資となるように改善することをサポートします。

大人向け英語教育

2015年から2020年にかけて、社会人の英語レベルが上昇していることは、本報告書の一貫した所見であり、社会人の自主学习と職場環境が、いかに以前の学習不足を補うことができるかを示しています。しかし、新型コロナウイルスの流行によってその傾向は落ち込みを見せたものの、感染拡大後初めてとなる今回の調査で、社会人の語学習熟度レベルに安定の兆しが見られました。今後の調査では、昨今の職場環境そのものの変容を踏まえて、以前の見られた英語レベルの向上が再開されるかどうかを明らかにしていきます。

調査を通じてはっきりしているのは、社会人でも英語を上達させることは可能であり、彼らの多くも上達に意欲的だったということです。これまで、ほとんどの社会人は、英語に触れていながらも、若干の苦手意識を持ちながら英語研修プログラムに参加していたでしょう。しかし、社会人研修プログラムならば、職場が提供するモチベーションや練習の機会を活用しながら、少しずつ学習者の自信を伸ばしていきます。講師との関わり、個人の目標に向けたコーチング、頻繁なフィードバックはすべて、社会人学習者の学習意欲を刺激する役割を果たします。若い世代の学習者の基礎学習に投資することも重要ですが、大人向けのトレーニングプログラムを放棄するのは早計です。特に実務的な習熟度の獲得には年数がかかることを考慮すると、その必要性は自明だと言えるでしょう。

アクセスの均等化

国によって違いはありますが、調査対象国のほとんどでは、国内の地域で英語の習得度にばらつきが見られる場合があります。私たちの調査データによると、ある地域の都市がその地域全体に比べて英語の習得度が大幅に高い事例があり、地域間の習得度のギャップに加えて、英語のスキルが首都圏や一部の都市に集中していることを示しています。このような英語スキルの分布から、英語が人々の雇用機会を広げたり、社会組織の競争力を向上させたり、イノベーションを加速させたりする役割を果たすことが懸念されます。これらのス習得度のばらつきは、都市と農村の格差が深まる国家的な状況にも影響を及ぼす可能性があります。

都市部の英語力が他に比べて高くなる理由は複数考えられます。都市は富を集中させる傾向があり、それによって人々や組織は英語のトレーニングに多くの資金を使えるようになります。また、大企業は都市に本社を置くことが多く、小規模なビジネスに比べて従業員の継続教育に投資する可能性が高くなります。大学などの教育機関も都市部にあり、調査データによれば大学に通う人々は、学業や就労において英語の習得が進むことが示されています。さらに、都市部にはバイリンガルプログラムや頻繁な交換留学を行っている優れた公立および私立の学校が集まる傾向があります。

これらの地理的な学習格差を解消するために、教師のトレーニングが教育成果を平準化に役立ちます。英語教師のための専門的な開発やメンターシッププログラムは、都市部以外に住む人々を考慮して、移動時間やその他の制約に合わせて再構築することができます。デジタルツールは、郊外に身を置く教師への適切な指導やリソースを提供し、それまでのトレーニングをさらに強化するのに役立ちます。必要であれば、インセンティブを提供することで、そうした英語教師のポジションを常に充足させることが可能になります。

同時に、郊外における成人の語学教育の提供も改善することができます。広範囲に分散した学習者を対象とする場合、インターネット接続が利用可能であれば、オンライン英語トレーニングが最も効率的な解決策となります。強力なインターネットインフラは、オンライン学習とリモートワークの機会の両方を支えることで、二重の影響をもたらします。オンライン学習に不慣れな方や、以前にオンラインコースを修了できなかった人は、完全自律型のコースよりも、監督された認証プログラムの方が参加しやすいと感じるかもしれません。雇用主主導のプログラムは、新しい英語スキルを適用する機会や、共に学ぶ仲間のコミュニティを組み込むことで、さらにコースの修了や語学力の習得をしやすいになります。

AIを最大限に活用する

過去2年間で、英語学習者や英語教師にとって画期的なAIインターフェースがリリースされましたが、現時点では一般的なAIツールを言語学習に適用するにはある程度の工夫が必要です。しかし、スピーキング能力の評価など特定のニーズに合わせたものもリリースされており、ロールプレイを作ったり、より親しみやすい方法でフィードバックを提供するためにサードパーティのモデルを使用するさまざまなアプリケーションが登場しています。専用のAI式言語学習ツールも間もなく登場する予定です。

現時点では、大規模言語モデルは英語学習者に対して無限の練習、説明、修正を提供でき、他人に質問をする際の気まずさを感じる必要なく、学習することができます。一般的なAIアシスタントは、英語スキルの向上方法を指導するように言うと、あなたのパターンを分析したり、繰り返しのミスを見つかったり、弱点を説明するのが比較的得意であり、人々が自分の習熟度を向上させるために強化する必要がある、具体的な部分を特定するのに役立ちます。AIがより多くのアプリケーションに組み込まれるこ

とで、文法や使用法を改善しやすくなり、これまで長年にわたってスペルチェックが多くの人々のスペルを改善してきたのと同じような効果を発揮します。現在、AIとのやり取りのほとんどは文面で行われていますが、一部のプラットフォームはスピーキングにも対応しています。しかし、一般的なツールを使用すると、発話の特徴に関するフィードバックを得るのは難しい場合があります。

現在のAIの応用は主に教授法やレッスン内でのブレインストーミングにおいて英語教師をサポートしていますが、じきに専用の教育アシスタントが、特定の作業に対して学生に個別のフィードバックを提供するようになり、弱点を強化するための練習をカスタマイズして提案するようになるでしょう。すでに一部の教師は、プラットフォームに応じて、AIアシスタントを活用しています。将来的には、AIがすべての教師の管理業務を軽減し、学生に向き合う時間を増やすことが期待されていますが、課題点として、これらがプラットフォームに依存し、すべてが同じ効果を持つわけではないと言う点が挙げられます。

今後、英語学習に関する技術がどれほど進化しても、言語教育の中心には生身の教師が居続けるべきだと私たちは考えています。若い世代の教育に関しては、プライバシーの懸念や対面指導の優位性を考慮し、AIの採用に遅れが出る可能性があります。すでにオンラインで学んでいることが多い大人の学習者にとっては、これまでの教師をAIコーチに置き換えるケースも増えていくでしょう。特に、AIを活用した語学学習が対面に比べて安価で、展開の

余地があることを考えるとなおさらです。しかし、大人の学習者においても同様のプライバシーの懸念があり、人との交流が少なかったり、質が一定でなかったり、自分の語学力の向上に対して他者の関心を集められないと感じなかったりといったことが、言語学習者にとって重要な要素であるモチベーションを大きく低下させる可能性があります。

英語教育は底なしの魅力を持つものです。人々のスキルレベルが低下する中、強力なネットワーク効果が注目され、あらゆる産業で英語力の需要が強化されており、現代、英語インターネットの氾濫から新たなさまざまなテクノロジーが出現している。AIは英語学習を容易にするのだろうか？すべての言語を学ぶことが時代遅れになるのだろうか？時間が経ってみなければわからないが、結局のところ、言語学習の機会をより公平に分配するための投資は、単に習熟度を向上させるということだけでなく、個人に力を与え、包括性を育み、相互接続された世界における理解を強化することなのである。

提言

多くの組織や個人が英語能力向上のメリットを認識しているが、その目標を達成する最適なアプローチを熟知している人は多くはない。以下、一般的な推奨事項をご紹介します：

企業向け

- 各人財に対して、現在の英語能力と目標の英語能力との差を縮めるために必要となる時間を考慮した現実的な目標を設定する
- 各オフィスを含め、国際性と可動性を大切に企業文化を構築する
- 海外のチームと頻りに連携を取りやすくなるプラットフォームを使用する
- 事務管理部門を含む全ての職務で、様々な国籍の社員を含む多様性のあるチームを構築する
- 社員全員をテストし、英語スキルの弱点を戦略的に特定する
- 人財の役割に合うようにチューニングされた英語カリキュラムで従業員を指導する
- テクノロジーを活用して柔軟性の高い学習を大規模に行う
- 役割ごとに英語能力の最低基準を設け、それらの基準が満たされているかテストする
- 時間をかけて英語力の向上をした人財に褒賞を与える
- 英語学習の体験談を共有することで経営陣や管理職クラスが従業員の手本となる
- 全社員に対して英語学習へのアクセスを優先する
- 全チームに好奇心を抱き学びに繋げる文化を浸透させる

公的機関および教育委員会向け

- カリキュラムで利用可能な時間数と教育の主要な節目ごとに達成できる能力レベルを提示する
- 教師と受講者の両方を対象に大規模な評価基準を設け、ベンチマークを設定した上で、長期的な進捗を追跡する
- 英語によるコミュニケーションスキルを評価できるよう入学試験と卒業試験を構築する
- 全ての新人教師のトレーニングプログラムに英語を含める
- 他の指導法で訓練を受けた英語教師に対し、実践的な指導法のトレーニングを再度行う
- 指導に十分な英会話力を持った教師のみが英語を指導できるような制度を設ける
- 英語を指導するための最低基準を設け、定期的に指導員のテストを行い、基準に満たない者をトレーニングする
- 子供たちに母語での読み書きを最初に教える

- 現在の職務のためだけでなく今後のキャリア構築も見据えて、全ての公務員の英語スキルを評価し、必要に応じてトレーニングを提供する
- 職業安定所と失業対策プログラムで英語指導を提供する
- 社会人向けに英語教育を含む生涯学習プログラムを提供する
- 政府によって資金投入された成人向け語学コースが、受講者が目標を達成するのに十分な期間で集中的に提供されるようにする
- コースの品質を証明しスキルの通用性を高め、標準化されたマイクロクレデンシャルを構築する
- テレビ番組や映画の吹き替えを行わず、字幕を使って原語で放送されるようにする
- 移民・難民が必要とする国別の英語研修プログラムを利用できるようにする

教師および教育機関向け

- 英語の指導に、コミュニケーション重視のアプローチを採用する
- 間違いばかりに目を向けるのではなく、コミュニケーションがうまくいったことを重要視する
- トレーニング外でも英語メディアに触れ受講者が好きなことを共有するなどの機会を提供する
- 教師が自身の英語向上に取り組める明確な道筋を示す
- 大学の全ての専攻で英語を必須科目にする
- すべての教師に、英語能力向上のための簡単なプログラムやカリキュラムと、そのための時間を与える
- 生徒と教授の両方の英語レベルが条件を満たす場合は、教科を英語で指導するのを許可する
- 英語能力が伸び悩んでいる受講生のために、英語の補習プログラムを設ける

個人向け

- コツコツ続け、次の能力レベルに上がるためには何百時間もかかることを理解しておく
- 段階が上がるにつれ、能力が向上していることを認識し、自分の成長を褒める
- 数分でもよいので、毎日英語を学習する
- 最大1時間のセッションで学習し、集中力が衰えたと感じたら休憩を取りましょう
- 実現可能な目標を具体的に設定し、書き出しておく
- 仕事や研究分野に関連する語彙を暗記し、すぐに使ってみる
- 本を音読するだけでもよいので、会話の練習をする
- 休憩時間を使って楽しめる英語コンテンツを見つける
- 英語でテレビを見たり、本を読んだり、ラジオを聞いたりする

- 英語圏に旅行するときは、街の標識、ラベル、広告を読むこと。店員やホテルのフロント、道行く人にもできるだけ話す
- オンラインレッスンを取り入れて、定期的な会話練習と教師とのコミュニケーションの機会を設けることも検討してみましょう
- ソーシャルメディアは英語設定に変更し、PCやアプリ、お気に入りのAIは英語で利用する
- 定期的に終わった仕事に立ち返り、改善を試みる

この指数について

分析方法

このEF EPI 英語能力指数2024は、2023年にEF Standard English Test (EF SET) または当社の英語プレイスメントテストのいずれかを受験した全世界210万人以上の受験者のテストデータに基づいて作成されています。

EF 英語標準テスト (EF SET)

EF SET は、オンラインで受けられるリーディング力とリスニング力を測る適応型英語テストです。当テストは標準化され、客観的にスコア付けされており、受験者の語学能力を Common European Framework of Reference (CEFR) によって定義された 6 つのレベルに分類できるよう設計されています。EF SET はすべてのインターネットユーザーが無料で受けられます。EF EST の研究および開発についての詳細は、www.efset.org/about/ をご参照ください。

EF EPI 英語能力指数2024の得点は、TOEFL iBT2022の得点 (r=0.76) およびIELTS Academic Test2022の得点 (r=0.58) と強い関係があることが明らかになりました。これらの相関関係は、これらのテストのデザインや受験者プロフィールは異なるものの、国民の英語力における傾向は似ていることを示しています。

受験者

EF EPI 英語能力指数の試験受験者サンプルは、回答者が言語学習の意欲がある人、および若年成人に偏る傾向がありますが、男女の人数に差はなく、幅広い年齢の成人言語学習者が含まれています。

- 女性回答者はサンプル全体の43%、男性回答者は36%、性別を記入しなかった回答者は21%でした。
- 年齢情報を提供した回答者の年齢の中央値は26歳で、回答者の85%が35歳未満、99.7%が60歳未満で下。回答者の19%が誕生日を記入していないため、測定できませんでした。
- 男性受験者の年齢の中央値は27歳、女性受験者の年齢の中央値は26歳でした。

受験者数が100人以上の都市と地域、400人以上の国のみが対象になっていますが、ほとんどの場合、これを大きく上回る受験者数が確認されました。

サンプリングの偏り

指標に含まれる受験者は任意で受験した人に限り、その国全体のレベルを代表するわけではありません。また、英語学習へのモチベーションが高い人、自分の英語能力に興味がある人などがテストに参加している可能性が高く、ランダムな母集団のスコアと比較した場合、スコアにより偏りが生じる可能性があります。

EF SETは無料でオンライン受験ができるため、インターネット接続可能な人であればどなたでも参加することができます。受験者のほぼ全員が社会人ないし新卒世代であり、インターネットにアクセスできない人々は含まれていません。本テストは、さまざまなデバイスに対応できる柔軟性を備えており、2023年の受験者の38%がモバイル端末でテストを受けています。また、インターネットの利用率が低い地域では、オンラインでの受験が難しく、それによってサンプリングバイアス（経済的に不利な人々や教育水準の低い人々が除外されること）が生じ、得点が高くなっている可能性があります。しかし、インターネットを使った自由参加型の試験方法は、広範囲にわたる指数に対し膨大なデータを収集するのに効果的であり、世界における英語能力レベルに関する貴重な情報を提供する手段であることは間違いありません。

スコアの計算法

EF EPI スコアの計算は、指数を安定させ、毎年のサンプリングの誤差を軽減するために、3年分のスコアのローリング平均を使って算出されています。まず、その国に居住する全受験者が前年中に達成したEF SET スコアの平均を算出し、次に、それ以前の2年分の公表済みのEF EPIスコアと平均しています。さらに、業種や職能、年功序列レベルについても、同様の方法でスコアを算出しています。

各国のEF EPIスコアの算出後に、それらのスコアを用いて世界の地域（欧州、アジアなど）スコアと、グローバルでのスコアを算出しています。これらのスコアは、国ごとに母集団加重されるため、たとえばアジアのスコアの計算においては、インドのスコアはタイのスコアよりもはるかに重いウェイトを占めます。この方法を、国家レベルで計算されるすべてのスコア（世界と地域のスコアと、その性別と年齢層の内訳）に適用しています。

国内のサブグループのスコアは、人口加重されていないデータになります。これらは、全国スコアに対する整合性を確保するために調整された3年間のローリング平均として計算されます。

スコアしきい値に基づき、国、地域、および都市は能力別グループに分けられています。能力別グループに分けることで、どの国が同等の英語能力を持っているか認識でき、また近隣諸国との比較も可能になります。

CEFR	EF EPI スコア	EF EPI バンド
C2	700-800	非常に高い
C1	600-699	非常に高い
B2	550-599	高い
	500-549	標準
B1	450-499	低い
	400-449	非常に低い
A2	300-399	非常に低い
A1	200-299	非常に低い
Pre-A1	1-199	非常に低い

その他のデータソース

EF EPIは、国家試験の結果や言語世論調査データ、またはその他いかなるデータと競合することも、否定することも目的としていません。これらのデータセットは、むしろ互いを補完しあうものであり、年齢層、国、地域、受験者のプロフィールなどがより具体的であるものの、範囲が限定された調査やテストとは対照的に、EF EPIでは、世界中の社会人を対象に、共通の評価方法を用いて調査を行っています。これほどの規模と範囲を持つデータセットは他には存在せず、政策立案者をはじめ学者やアナリストと、英語教育についての世界的な議論を展開する上でも、価値ある参考資料になると考えています。

EF EPIは、EuromonitorやGallupなどの世論調査機関、あるいはOECDによる学習到達度調査 (PISA) や国際成人力調査 (PIAAC) などの能力調査とは異なるプロセスで作成されています。これらの調査では、年齢、性別、教育水準、所得などの複数の要素を考慮して調査対象者を抽出しており、調査パネルは小規模であることが多く、参加者は多くとも数千人程度ですが、複雑なサンプリング手法を用いて調査を実施しているため、全人口を代表していると考えられています。

PISAには、2025年に初めて外国語としての英語能力評価が導入される予定となっており、15歳の能力レベルをベンチマークするうえで、EF EPIにとって興味深い比較データとなると考えています。

英語能力に関するもう一つのデータソースとして、国の教育制度に関する集計データがあります。多くの大学では、高校生や大学受験生全員を対象に全国統一の英語能力テストを実施しており、（結果が公表されている場合とされていない場合もあり）教育関係者や政府関係者はこうしたデータをもとに教育改革の効果を評価し、改善点を洗い出しています。しかし、こうした全国規模のテストは、他国と同条件で比較することが難しく、さらに、成人を対象としていないため、世界の高校生の英語能力に関する情報は得られるものの、国際比較や、成人の英語能力レベルを把握するうえでは有用ではありません。

EF Education First

イー・エフ・エデュケーション・ファースト (EF) は、1965年にスウェーデンで創設され、以来、世界100カ国以上で語学、旅行、文化交流、学術プログラムを通してイマーシブな文化教育に取り組んでいます。詳しくは www.ef.com をご覧ください。また、法人向けに英語研修はもちろん、リーダーシップ研修や人事評価、コーチングソリューションも提供しております。詳しくは www.hultef.com/jp をご覧ください。EF EPI 英語能力指数はSignum International AGによって発行されています。

EF EPI 能力レベル

EF EPI能力レベルについて

EFEPI能力レベルを見ることによって、同様のスキルレベルを持つ国々の特定や、地域内および地域間での比較が簡単にできるようになります。各能力レベルに記載されているタスクは、各レベルにおいて個人が実行できるタスク例を示しています。各レベルにおける上位3ヶ国が一覧に記載されています。EFEPIは英語を母国語としない国と地域のみを調査の対象としています。

右の一覧では、各能力レベルにおいて個人がどのようなタスクを行うことができるかを示すタスク例を紹介しています。タスクは包括的に選択されたものではありませんが、レベル間においてどのように英語スキルが向上していくかを理解するための参考資料としてお役立てください。

英語能力レベルについては、平均的な受験者の能力を示しているに過ぎないことを念頭に置くことが重要であり、本テストは国や地域を比較することを目的としており、個々の強みや弱みは反映されていません。

能力レベル

能力レベル	タスク例
非常に高い オランダ デンマーク シンガポール	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 社会生活の場面で正しい意味合いを持たせた適切な言語を使用できる ✓ 高度な文章を簡単に読むことができる ✓ ネイティブスピーカーと契約交渉ができる
高い スリナム キプロス マレーシア	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 職場でプレゼンを行っている ✓ テレビ番組を理解できる ✓ 新聞を読む
標準的 スペイン ウルグアイ 韓国	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 専門分野における会議に参加している ✓ 歌の歌詞を理解することができる ✓ 熟知した内容についてプロフェッショナルなメールを書くことができる
低い 日本 ブラジル メキシコ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 観光客として英語を話す国を旅することができる ✓ 同僚とちょっとした会話ができる ✓ 同僚からの簡単なメールを理解できる
非常に低い リビア スーダン ミャンマー	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 簡単な自己紹介(名前、年齢、出身国)ができる ✓ 簡単な合図を理解できる ✓ 海外からの訪問者に基本的な指示をすることができる

CEFR レベルとCan-Do 自己評価

熟練者

C2	<ul style="list-style-type: none"> ● 聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。 ● いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。 ● 自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
C1	<ul style="list-style-type: none"> ● いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文を理解することができ、含意を把握できる。 ● 言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。 ● 社会的、学問的、職業上の目的に応じた柔軟でかつ効果的な言葉遣いができる。 ● 複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の詳細な文を作ることができる。

自立した言語使用者

B2	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑な文の主要な内容を理解できる。 ● 流暢で自発的な対話ができ、他の話者との一般的な交流が、お互いに無理なくできる。 ● かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細な文を作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
B1	<ul style="list-style-type: none"> ● 仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。 ● 特定の言語を話されている地域を旅行しているときに起こりそうな大抵の事態に対処することができる。 ● 身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のある文を作ることができる。 ● 経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べるができる。

基礎段階の言語使用者

A2	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 ● 自分や他人を紹介ことができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 ● もし、相手がゆっくり、はっきりと話して助け船を出してくれる場合に簡単なやり取りをすることができる。
A1	<ul style="list-style-type: none"> ● ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。 ● 簡単に日常的な範囲内で、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。 ● 自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

ヨーロッパ評議会の言葉

EF EPI の全ての参加国はレベルA2～C1の範囲に分類されます。

付録D

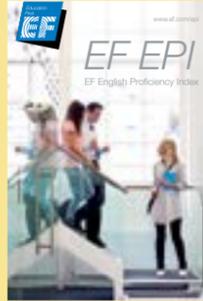
EF EPI 各国・地域スコア

各地域の英語力に
おける変化の年次比較

	EF EPI 2024年版	EF EPI 2023年版	スコアの推移
オランダ	636	647	-11
ノルウェー	610	614	-4
シンガポール	609	631	-22
スウェーデン	608	609	-1
クロアチア	607	603	4
ポルトガル	605	607	-2
デンマーク	603	615	-12
ギリシャ	602	602	0
オーストリア	600	616	-16
ドイツ	598	604	-6
南アフリカ	594	605	-11
ルーマニア	593	596	-3
ベルギー	592	608	-16
フィンランド	590	597	-7
ポーランド	588	598	-10
ブルガリア	586	589	-3
ハンガリー	585	588	-3
スロバキア	584	587	-3
ケニア	581	584	-3
エストニア	578	570	8
ルクセンブルク	576	575	1
フィリピン	570	578	-8
リトアニア	569	576	-7
セルビア	568	569	-1
チェコ共和国	567	565	2
マレーシア	566	568	-2
スリナム	563	—	新規
アルゼンチン	562	560	2
キプロス	558	—	新規
ナイジェリア	557	562	-5
スイス	550	553	-3
香港(中国)	549	558	-9
ホンジュラス	545	544	1
ジョージア	543	541	2
ベラルーシ	539	539	0
スペイン	538	535	3
ウルグアイ	538	533	5
アルメニア	537	528	9
モルドバ	536	535	1
ウクライナ	535	530	5
コスタリカ	534	534	0
ガーナ	534	537	-3
アルバニア	533	533	0
ロシア	532	532	0
パラグアイ	531	530	1
イタリア	528	535	-7
ポリビア	525	532	-7
チリ	525	518	7
フランス	524	531	-7
韓国	523	525	-2
イスラエル	522	514	8
キューバ	520	531	-11
ペルー	519	521	-2
ウガンダ	518	529	-11
エルサルバドル	513	524	-11
ネパール	512	507	5
ベネズエラ	510	508	2
グアテマラ	507	515	-8

	EF EPI 2024年版	EF EPI 2023年版	スコアの推移
ニカラグア	505	503	2
ドミニカ共和国	503	512	-9
バングラデシュ	500	504	-4
イラン	499	505	-6
エチオピア	498	490	8
ベトナム	498	505	-7
トルコ	497	493	4
チュニジア	496	502	-6
パキスタン	493	497	-4
レバノン	492	496	-4
インド	490	504	-14
アラブ首長国連邦	489	486	3
パナマ	488	486	2
タンザニア	487	491	-4
スリランカ	486	491	-5
コロンビア	485	480	5
カタール	480	482	-2
モロッコ	479	478	1
シリア	473	467	6
アルジェリア	471	475	-4
モザンビーク	469	—	もう一度読み込む
インドネシア	468	473	-5
ブラジル	466	487	-21
エクアドル	465	467	-2
エジプト	465	463	2
モンゴル	464	482	-18
マダガスカル	463	474	-11
アゼルバイジャン	462	463	-1
メキシコ	459	451	8
キルギス	457	450	7
カーボベルデ	456	—	新規
クウェート	456	461	-5
中華人民共和国	455	464	-9
日本	454	457	-3
ミャンマー	449	450	-1
パレスチナ	448	445	3
アフガニスタン	447	456	-9
マラウイ	447	460	-13
カメルーン	445	438	7
ウズベキスタン	439	442	-3
ハイチ	432	421	11
スーダーン	432	430	2
ヨルダン	431	431	0
セネガル	429	438	-9
カザフスタン	427	415	12
オマーン	421	418	3
サウジアラビア	417	408	9
タイ	415	416	-1
イラク	414	410	4
ベナン	413	416	-3
タジキスタン	412	388	24
アンゴラ	409	416	-7
カンボジア	408	421	-13
リビア	405	392	13
ルワンダ	401	405	-4
コートジボワール	399	409	-10
ソマリア	399	411	-12
イエメン	394	392	2

EF EPIの過去資料は www.ef.com/epi からダウンロードできます。



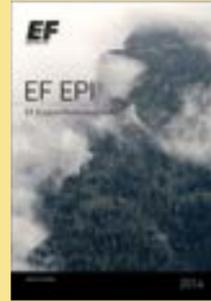
EF英語能力指数
2011年版



EF英語能力指数
2012年版



EF英語能力指数
2013年版



EF英語能力指数
2014年版



EF英語能力指数
2023年版



EF英語能力指数
2024年版



EF英語能力指数
2015年版



EF英語能力指数
2016年版



EF英語能力指数
2017年版



EF英語能力指数
2018年版



EF英語能力指数
2019年版



EF英語能力指数
2020年版



EF英語能力指数
2021年版



EF英語能力指数
2022年版

